

---

---

---

---

---

ファーストイーサネット・インテリジェント・スイッチ

CentreCOM<sup>®</sup> **8224SL**

---

# 取扱説明書



CentreCOM **8224SL**

---

# 取扱説明書

# 安全のために



必ずお守りください

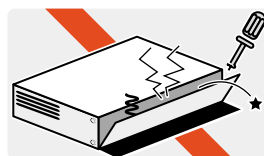


## 警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

### 分解や改造をしない

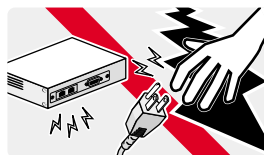
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

### 雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

### 異物はいれない 水は禁物

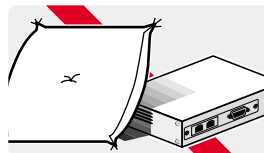
火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

### 通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

### 湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

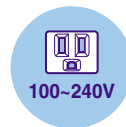
内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

### 表示以外の電圧では使用しない

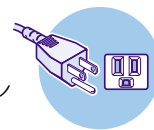
火災や感電の原因となります。  
本製品は AC100 - 240V で動作します。  
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

### 正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

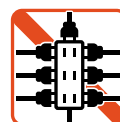
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。  
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピン  
コンセント

### コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

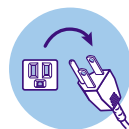
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

## 設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを  
抜く

## 電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

## 光源をのぞきこまない

目に障害が発生する場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

# ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



## 静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



## 取り扱いはていねいに

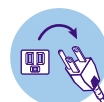
落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



# お手入れについて

## 清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



## 機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤  
使用



強く絞る

## お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん  
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー  
類不可

---

## ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2002 アライドテレシス株式会社

---

## 商標について

CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

---

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

---

## マニュアルバージョン

2002年 7月

Rev.A

初版

# はじめに

このたびは、CentreCOM 8224SL をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、高さ 1U(約45mm)サイズの筐体に 10BASE-T/100BASE-TXポートを24ポート装備したファーストイーサネット・インテリジェント・スイッチです。

拡張モジュール用スロットを2つ装備し、オプションとして5種類の拡張モジュールが実装できます。また、オプションのリダンダント電源装置を使用すれば、電源の冗長構成が可能になります。

Telnetやターミナルポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースは、メニュー形式とコマンドライン形式の2種類をサポートしています。

また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

---

## マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。また、お読みになった後も、製品保証書とともに大切に保管してください。

○ **取扱説明書**

本製品の概要、設置と接続、本製品に設定を行うための手順と基本的な操作方法など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

○ **オペレーションマニュアル(CD-ROM)**

各機能の解説、メニューとコマンドの使用方法など、本製品の設定項目に関するすべての情報が記載されています。

○ **リリースノート**





ソフトウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とオペレーションマニュアルの内容を補足する最新の情報が記載されています。  
ソフトウェアのバージョンによっては、添付されない場合もあります。




## 表記について

本書の表記ルールを以下に示します。

### アイコン

アイコン	意味
 ヒント	知っておいていただきたい点やポイントとなる点を示しています。
 注意	気を付けていただきたい点を示しています。
 警告	人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。
 参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

### 書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

### 製品名の表記

「本製品」と表記している場合は、CentreCOM 8224SL を意味します。場合によっては、8224SL のように CentreCOM を省略して記載します。

# 目次

安全のために .....	4
はじめに .....	7
マニュアルの構成 .....	8
表記について .....	9
<b>1 お使いになる前に</b> .....	<b>13</b>
1.1 梱包内容 .....	14
1.2 特長 .....	15
1.3 各部の名称と働き .....	17
前面 .....	17
背面 .....	19
側面 .....	20
1.4 LED 表示 .....	21
ポートLED .....	21
ステータスLED .....	22
<b>2 設置と接続</b> .....	<b>23</b>
2.1 設置 .....	24
設置するときの注意 .....	24
19インチラックへの取り付け .....	24
2.2 接続 .....	26
ネットワーク機器を接続する .....	26
コンソールを接続する .....	27
電源ケーブルを接続する .....	28

3.1 操作の流れ .....	30
3.2 設定の準備 .....	31
コンソールターミナルを設定する .....	31
本体を起動する .....	32
3.3 ログインする .....	33
ログインする .....	33
ログインパスワードを変更する .....	34
3.4 設定を始める .....	35
コマンドの入力と画面 .....	35
オンラインヘルプ .....	38
コマンドの表記 .....	39
コマンド一覧 .....	40
3.5 設定を保存する .....	43
設定を保存する .....	43
設定内容を確認する .....	44
3.6 システムを再起動する .....	45
3.7 ログアウトする .....	46
3.8 基本の設定と操作 .....	47
IPアドレスを設定する .....	47
Telnet を使用する .....	50
ファイルをアップロード・ダウンロードする .....	53
システム名を設定する .....	57
SNMP による管理のための設定をする .....	58
メニュー形式で設定する .....	62
工場出荷時設定に戻す .....	65
3.9 デフォルト設定 .....	67

<b>4 付録</b>	<b>69</b>
4.1 困ったときに .....	70
セルフテストの結果を確認する .....	70
LED表示を確認する .....	70
トラブル例 .....	71
4.2 拡張モジュール.....	74
拡張モジュールの種類 .....	74
拡張モジュールのポート番号 .....	75
拡張モジュールの取り付けかた .....	76
4.3 リダンダント電源装置 .....	78
RPS8100について.....	78
RPS8100の接続のしかた .....	79
RPS8100のモニター .....	80
4.4 ハイパーターミナルの設定 .....	81
4.5 Telnetクライアントの設定 .....	84
4.6 仕様 .....	87
コネクタ・ケーブル仕様 .....	87
本製品の仕様 .....	89
<b>5 保証とユーザーサポート</b>	<b>91</b>
5.1 保証とユーザーサポート .....	92
保証 .....	92
ユーザーサポート .....	92
5.2 調査依頼書のご記入にあたって .....	93
使用しているハードウェア・ソフトウェアについて .....	93
お問い合わせ内容について .....	93
ネットワーク構成について .....	93
調査依頼書(CentreCOM 8224SL) .....	94

# 1

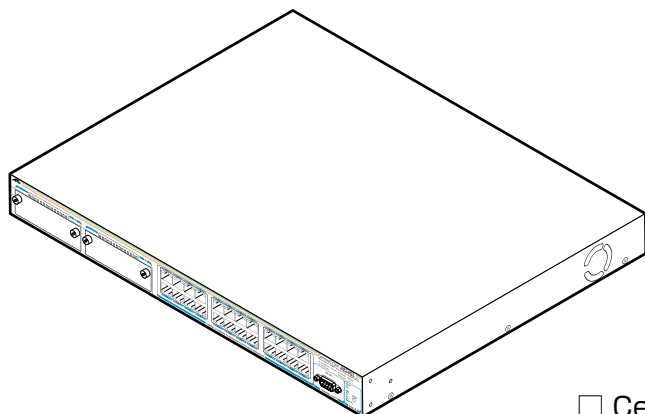
## お使いになる前に

---

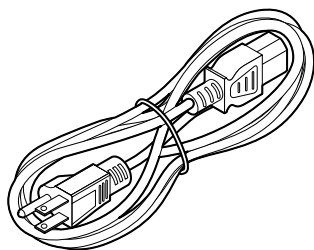
この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明しています。

# 1.1 梱包内容

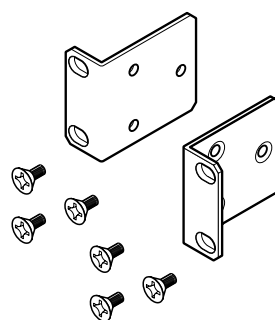
最初に梱包箱の中身を確認してください。



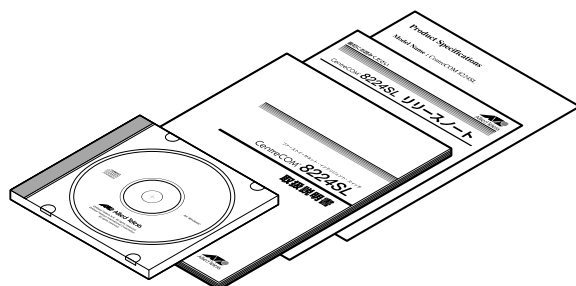
□ CentreCOM 8224SL本体 1台



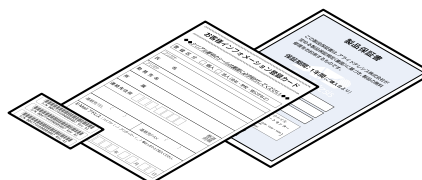
□ 電源ケーブル(2m) 1本



□ 19インチラックマウントキット 1式  
(ブラケット 2個・ブラケット用ネジ 6個)



□ 製品仕様書(英文) 1枚  
□ リリースノート 1部※  
□ 取扱説明書(本書) 1冊  
□ CD-ROM 1枚



□ 製品保証書 1枚  
□ お客様インフォメーション登録カード 1枚  
□ シリアル番号シール 3枚

※ ソフトウェアのバージョンによっては、  
添付されない場合もあります。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

## 1.2 特 長

本製品の主な特長は以下のとおりです。サポートする機能はソフトウェアのバージョンに依存する場合がありますので、詳細については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

### ハードウェア

- 19インチラック 1Uサイズ(幅 440mm ×奥行 357mm ×高さ 44mm)
- 10BASE-T/100BASE-TX ポートを 24 ポート装備
- 拡張スロットを 2 つ装備

### マネージメント

- SNMP をサポート
- RMON(1,2,3,9 グループ)をサポート
- RS-232 経由のコンソールや Telnet から本体に対する設定が可能
- コマンドライン形式とメニュー形式の 2 種類のユーザーインターフェースをサポート

### ソフトウェア / スイッチング

- ポートごとに通信モードを設定可能
- 全ポート MDI/MDI-X 自動切替機能をサポート(オートネゴシエーション時に有効)  
ポートごとに MDI、または MDI-X の固定設定も可能
- フローコントロール機能(Full Duplex 時 = IEEE802.3x PAUSE・Half Duplex 時 = バックプレッシャー)をサポート
- ブロードキャストパケットフィルタリング機能をサポート
- MAC アドレスフィルタリングによるポートセキュリティ機能をサポート
- IGMP(v2)スヌーピング機能をサポート
- ポートランキング機能をサポート
- RRP/VRRP スヌーピング機能をサポート
- ポートミラーリング機能をサポート

## 1.2 特長

- IEEE 802.1Q 準拠のタグ VLAN 機能・マルチプル VLAN 機能をサポート
- IEEE 802.1p 準拠の QoS 機能をサポート
- IEEE 802.1D 準拠のスパニングツリー機能をサポート
- 最大 8K の MAC アドレスを登録可能

### ソフトウェア / 運用・管理

- IP フィルター機能をサポート
- DHCP クライアント機能をサポート
- ログ機能をサポート (RAM 上、および syslog サーバーへの出力が可能)
- スクリプト機能をサポート
- RS-232 経由 (Xmodem)、および TFTP/FTP のネットワーク経由でソフトウェアや設定ファイルのダウンロード・アップロードが可能

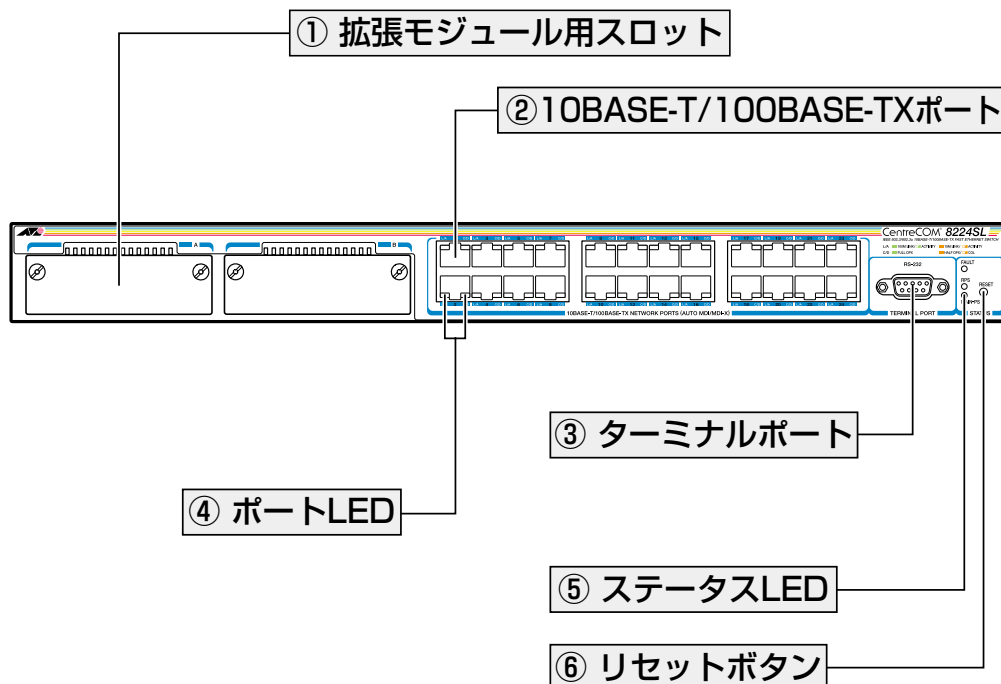
### オプション (別売)

- 拡張モジュールによりポートの拡張が可能
  - AT-A14 1000BASE-T × 1 ポート
  - AT-A15/SX 1000BASE-SX × 1 ポート
  - AT-A15/LX 1000BASE-LX × 1 ポート
  - AT-A17 100BASE-FX × 2 ポート
  - AT-A18 10BASE-T/100BASE-TX ポート × 4 ポート
- リダンダント電源装置により電源の冗長構成が可能  
CentreCOM RPS8100
- ケーブルロックで電源ケーブルの抜けを防止  
AT-RTNR-01




# 1.3 各部の名称と働き

## 前面



### ① 拡張モジュール用スロット

拡張モジュールを装着するスロットです。

 74 ページ「拡張モジュール」

### ② 10BASE-T/100BASE-TX ポート

10BASE-T、または 100BASE-TXのUTPケーブルを接続するコネクタです。

ケーブルは 10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合は、カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーション(Auto negotiate)が設定されています。オートネゴシエーションの場合、MDI/MDI-X自動切替機能が有効になり、接続先のポートの種類(MDI/MDI-Xに関わらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

### ③ ターミナルポート

本体に設定をするためのコンソールを接続するRS-232コネクタ(9ピンメスタイプ)です。ケーブルはRS-232ストレートケーブルを使用します。

## 1.3 各部の名称と働き

### ④ ポート LED


10BASE-T/100BASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示する LED ランプです。

#### ○ L/A(Link/Activity)

通信速度(10/100Mbps) 接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

#### ○ C/D(Collision/Duplex)

デュプレックス(Half/Full Duplex)、コリジョンの発生を表します。

 21 ページ 「LED 表示」

### ⑤ ステータス LED

システム全体の状態を表示する LED ランプです。

#### ○ FAULT


本体またはソフトウェアの異常を表します(点灯)。起動時はセルフテスト実行中、運用時はフラッシュ ROM に書き込み中であることを表します(点滅)。

#### ○ RPS

リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8100」の電源供給状態を表します。

#### ○ MAIN-PS

本体の電源供給状態を表します。

 21 ページ 「LED 表示」

### ⑥ リセットボタン

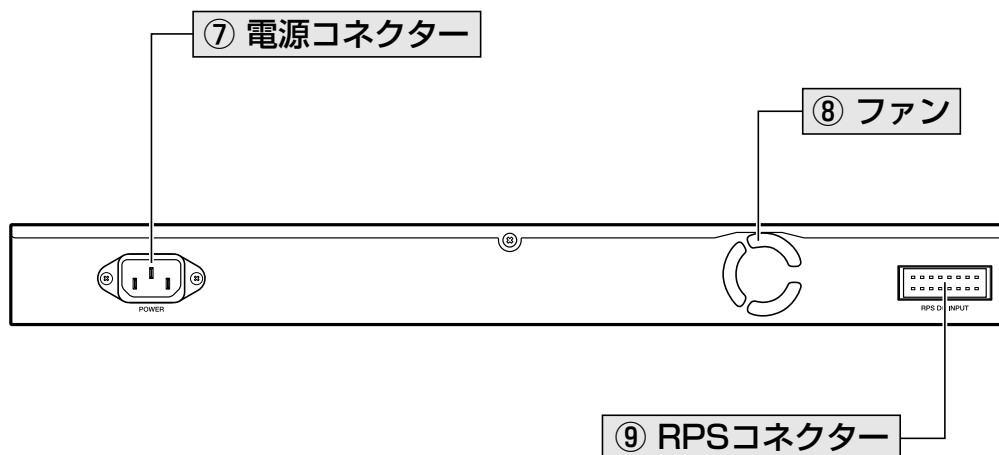
本体を再起動するためのボタンです。

先の細い棒などでリセットボタンを押すと、本体はハードウェア的にリセットされます。



鋭利なもの(縫い針など)や通電性のある物で、リセットボタンを押さないでください。

## 背面



### ⑦ 電源コネクタ

電源ケーブル(ソケット側)を接続するコネクタです。

本製品はAC100-240Vで動作しますが、同梱の電源ケーブルはAC100-120V用ですのでご注意ください。

### ⑧ ファン

換気によって、本体内部の熱を逃すための冷却ファンです。



ファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

### ⑨ RPS コネクタ

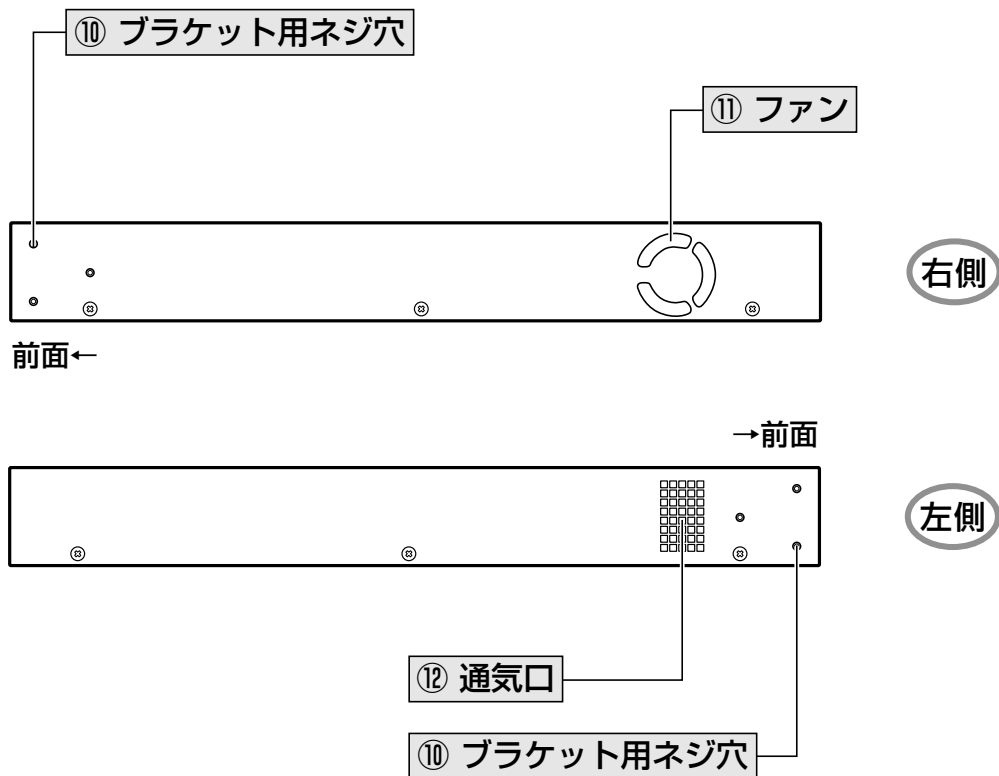
リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8100」のDC電源ケーブルを接続するコネクタです。



78 ページ「リダンダント電源装置」

## 1.3 各部の名称と働き

### 側面



#### ⑩ ブラケット用ネジ穴

同梱の 19 インチラック用ブラケットを取り付けるためのネジ穴です。


 24 ページ「19 インチラックへの取り付け」

#### ⑪ ファン

換気によって、本体内部の熱を逃すための冷却ファンです。

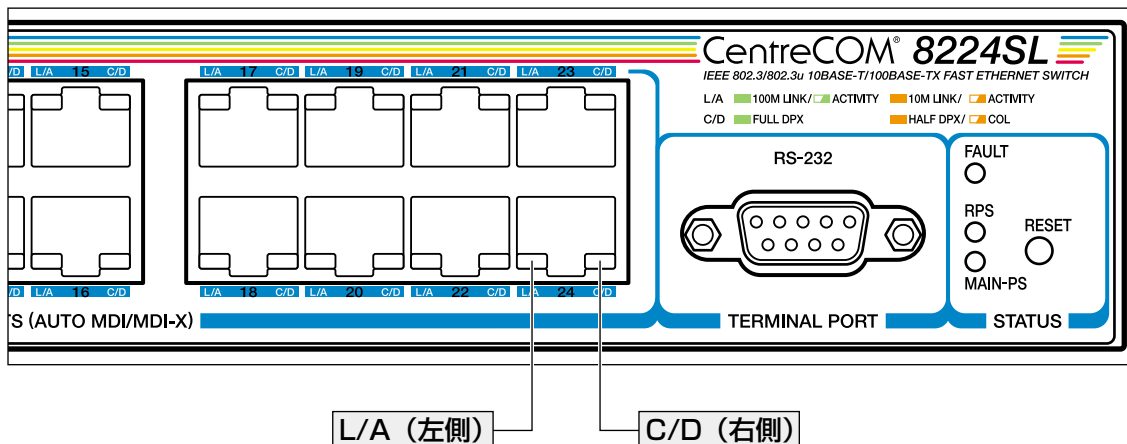
#### ⑫ 通気口

換気によって、本体内部の熱を逃すための穴です。

 ファンや通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

# 1.4 LED表示

本体前面には、システム全体や各ポートの状態を示すLEDランプがついています。



## ポートLED

2種類のLEDランプで各ポートの状態を表します。


LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立されていません。
C/D	緑	点灯	Full duplexでリンクが確立しています。
	橙	点灯	Half duplexでリンクが確立しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
	—	消灯	リンクが確立されていません。

## 1.4 LED表示

### ステータスLED

3種類のLEDランプでシステム全体の状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	システム、または内蔵ソフトウェアに異常があります。
		点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) フラッシュROMに書き込みを行っています。(運用時) Xmodem経由でファイルを転送中です。
	—	消灯	システムに異常はありません。
RPS	緑	点灯	リダンダント電源装置の電源ユニットに電源が供給されています。
	—	消灯	リダンダント電源装置の電源ユニットに電源が供給されていません。
MAIN-PS	緑	点灯	本体の電源ユニットに電源が供給されています。
	—	消灯	本体の電源ユニットに電源が供給されていません。

 RPSとMAIN-PSの両方のLEDが点灯している場合は、本体がリダンダント電源装置と本体の両方の電源供給で動作していることを示します。

# 2

## 設置と接続

---

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

# 2.1 設置

## 設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず4ページの「安全のために」をよくお読みください。

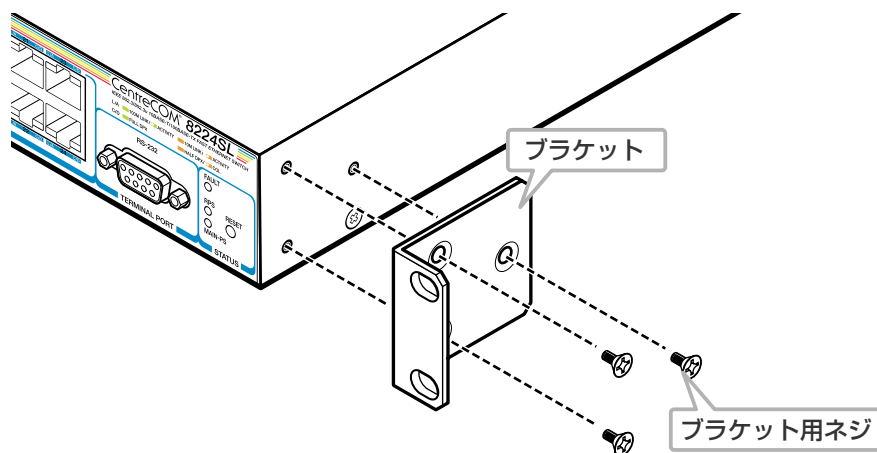
設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本体側面、および背面をふさがないように設置してください。
- 横置きの場合は、傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 本体の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

## 19 インチラックへの取り付け

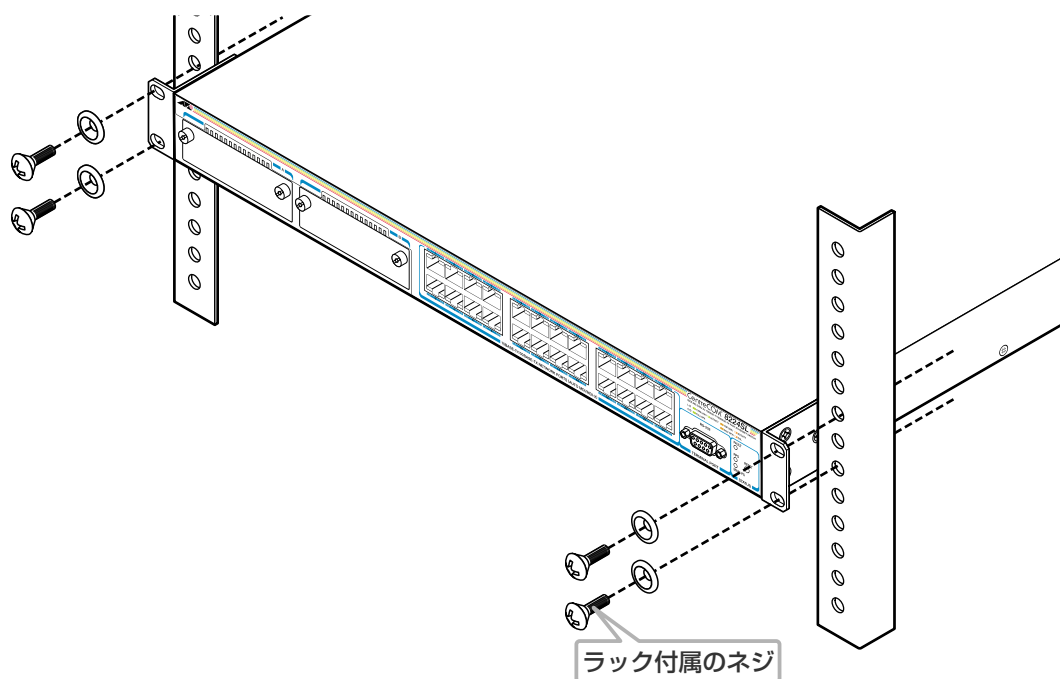
同梱の19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 本体底面の四隅にネジ止めされているゴム足を、ドライバーを使用してはずします。
- 3 本体側面にブラケットを合わせ、ブラケット用ネジで両側にしっかりと固定します。





- 4** 19インチラックの希望する位置に本体を合わせて、ラックに付属しているネジでしっかりと固定します。



- ⚠** ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、19インチラックに適切なネジで確実に固定してください。  
固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

## 2.2 接 続

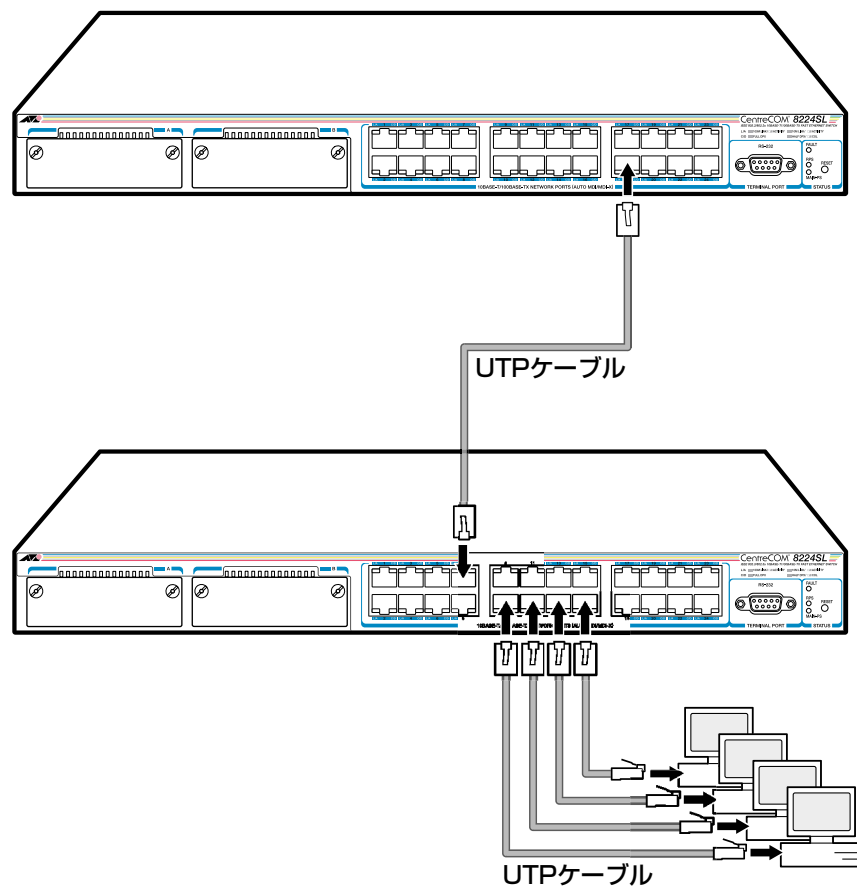
### ネットワーク機器を接続する

#### ケーブル

- UTPケーブルのカテゴリー  
10BASE-Tの場合はカテゴリー 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリー 5以上のUTPケーブルを使用します。

**i** 本製品は弊社販売品のシールド付カテゴリー5（ストレート）ケーブルにも対応しています。

- UTPケーブルのタイプ  
本製品はMDI/MDI-X自動切替機能をサポートしています。10BASE-T/100BASE-TXポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合、MDI/MDI-X自動切替機能が有効になり、接続先のポートの種類（MDI/MDI-Xに関わらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。
- UTPケーブルの長さ  
本製品とネットワーク機器を接続するケーブルの長さは100m以内にしてください。



## コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵のソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232ストレートケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

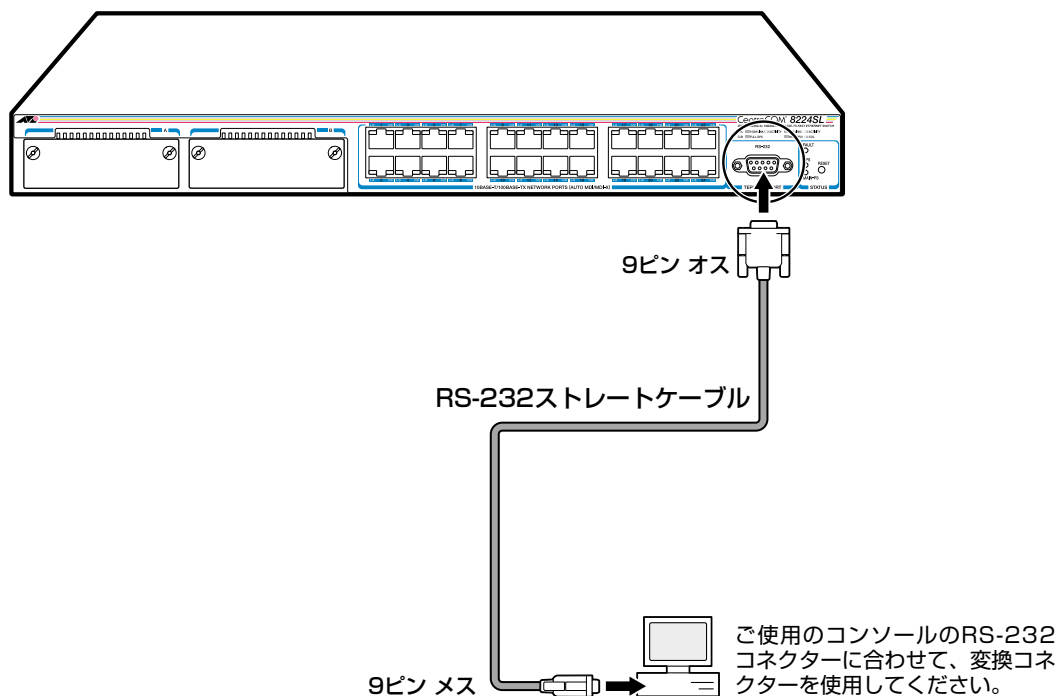
### コンソール

コンソールは、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100端末装置のご使用をお勧めします。

**i** 通信ソフトウェアの設定については、31 ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

### ケーブル

ケーブルはRS-232ストレートケーブル(9ピン オス—9ピン メス)を使用します。接続する機器に合わせて、別途変換コネクタを用意してください。

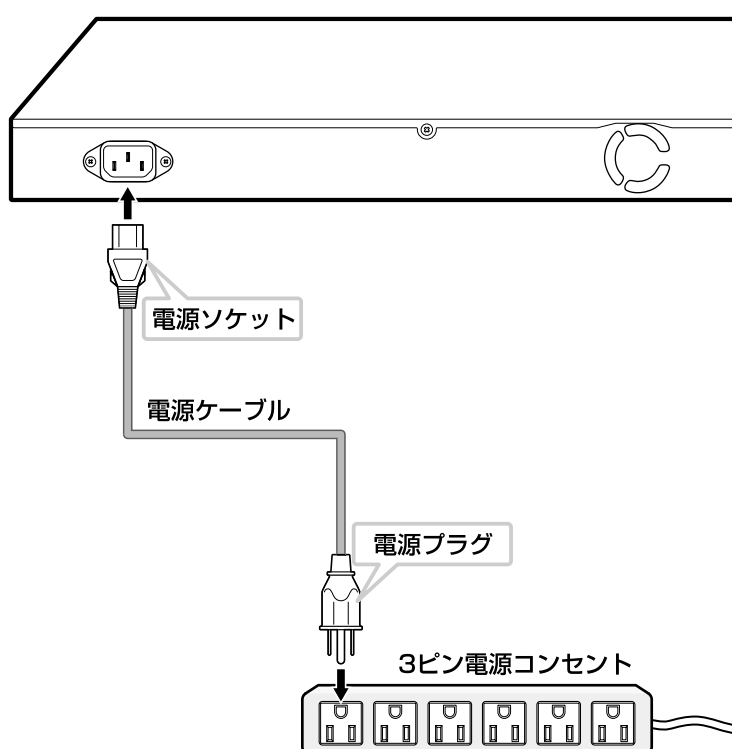


## 2.2 接 続

### 電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

- 1 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、本体前面ステータスLEDのMAIN-PS LEDが緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。  
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

- !** 本製品をAC100-120Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。  
不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。
- i** 本製品には、オプション(別売)で、電源ケーブル(電源ソケット)の抜けを防止するケーブルロック「AT-RTNR-01」が用意されています。

# 3

## 設定の手順

---

この章では、本製品に設定を行うための手順と、基本的な操作方法について説明しています。

# 3.1 操作の流れ

## STEP 1 コンソールを接続する


RS-232ストレートケーブルで、本体前面のターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

 27ページ「コンソールを接続する」



## STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 31ページ「コンソールターミナルを設定する」



## STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。  
ユーザー名は「Manager」、パスワードは「friend」がデフォルトで登録されています。  
ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。パスワードは大文字・小文字を区別します。

Login: **manager** . . . 「manager」と入力して **[Enter]** キーを押します。

Password: **friend** . . . 「friend」と入力して **[Enter]** キーを押します。

 33ページ「ログインする」




## STEP 4 設定を始める

Manager% . . . プロンプトの後にコマンドラインを入力します。

メニュー形式で設定を行う場合は . . .

Manager% **menu** . . . 「menu」と入力して **[Enter]** キーを押します。

 62ページ「メニュー形式で設定する」



## STEP 5 設定を保存する

Manager% **save** . . . 「save」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、メインメニューから [Save] を選択します。

 43ページ「設定を保存する」



## STEP 6 システムを再起動する

Manager% **restart reboot** . . . 「restart reboot」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、Administrationメニューから [Reset and restart system] を選択します。


 45ページ「システムを再起動する」



## STEP 7 ログアウトする

Manager% **quit** . . . 「quit」と入力して **[Enter]** キーを押します。

⇒ メニューの場合は、メインメニューから [Quit] を選択します。

 46ページ「ログアウトする」


## 3.2 設定の準備


### コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、本体前面のターミナルポートに接続したコンソールターミナル、またはLAN上のホストからTelnetを使用して行います。

コンソールターミナル(通信ソフトウェア)に設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Delete

 通信ソフトウェアとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT に標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、81ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。


 Telnetを使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。

 47ページ「IPアドレスを設定する」

 50ページ「Telnetを使用する」

## 3.2 設定の準備

### 本体を起動する

- 1 コンピューター(コンソール)の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。
- 2 本製品の電源を入れます。  
 28 ページ「電源ケーブルを接続する」
- 3 Bootプログラムが起動し、セルフテストを行った後システムソフトウェアを起動します。

```
BOOT Ver3.4

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....

Decompressing System Software, please wait.....
Done.  Initializing System

Checking Product Type


Reading Config Data

Initializing Switching System

Initializing Ethernet Controller

Starting System ...

(press RETURN once or twice to enter Main Menu)
```

- 4 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)と表示されたら、キーを押します。
- 5 「Login:」プロンプトが表示されます。



## 3.3 ログインする

### ログインする

本製品のコマンドプロセッサには、権限によってMANAGER(管理者)とUSER(一般ユーザー)の2つのユーザーレベルがあります。デフォルトでは、MANAGERレベルのユーザーアカウント「Manager」のみが登録されています。

- 1 「Login:」プロンプトが表示されたら、ユーザー名「Manager」を入力します。ユーザー名は大文字・小文字を区別しません。

```
Login: manager [Enter]
```

- 2 「Password:」プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。パスワードは大文字・小文字を区別します。実際の画面では入力した文字は「\*」で表示されます。


```
Password: friend [Enter]
```

- 3 システム情報の後、「Manager%」プロンプトが表示されます。本製品に対する設定や管理は、このプロンプトの後にコマンドラインを入力することにより行います。

```
Allied Telesis CentreCOM 8224SL Ethernet Switch
MAC Address 0000F4 272821, Uplink A: Not present , Uplink B: Not present
AT-S50 Ethernet Switch Software: Version 4.0.0J 020621
SIGMA command shell version 1.3
Running 54 minutes, 18 seconds
Manager%
```

ユーザー名またはパスワードが間違っている場合は、次のメッセージが表示されてログインできません。再度「Login:」プロンプトに続けて、正しいユーザー名とパスワードを入力してください。

```
Login incorrect
Login:
```

-  ログインセッション数はローカル(コンソール)、リモート(Telnet)合わせて1つです。2つ以上のセッションを同時に開くことはできません。

## 3.3 ログインする

### ログインパスワードを変更する

ログインパスワードの変更を行います。セキュリティ確保のため、デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

#### 使用コマンド

SET PASSWORD

- 1 MANAGERレベルでログインします。

```
Login: manager 
```

```
Password: friend 
```

- 2 パスワードの設定を行います。

```
Manager% set password 
```

- 3 現在のパスワードを入力します。

ここでは、デフォルトの「friend」を入力します。実際の画面では入力した文字は「\*」で表示されます。

```
Old password: friend 
```

- 4 新しいパスワードを入力します。

6～20文字の半角英数字および記号で入力してください。パスワードは大文字・小文字を区別します。

ここでは新しいパスワードを「openENDS」と仮定します。

```
New password: openENDS 
```

- 5 確認のため、再度新しいパスワードを入力します。

```
Retype new password: openENDS 
```

確認の入力に失敗すると、次のメッセージが表示されます。再度手順3に戻り、パスワードを入力しなおしてください。

```
Mismatch; try again, EOF to quit.
```

```
New password:
```



パスワードは忘れないように注意してください。

## 3.4 設定を始める

### コマンドの入力と画面

#### コマンドライン編集キー

コマンドラインでは、以下の編集機能を使うことができます (VT100互換のターミナルが必要です)。

機能	ターミナルのキー
カーソル位置の左1文字を削除	<code>Delete</code> / <code>Backspace</code>
カーソルのある行全体を削除	<code>Ctrl</code> + <code>U</code>
前のコマンドを表示 (履歴を戻る)	<code>Ctrl</code> + <code>P</code> / <code>↑</code>
次のコマンドを表示 (履歴を進める)	<code>Ctrl</code> + <code>N</code> / <code>↓</code>


#### 入力可能なキーワードを表示する

コマンドの入力途中で `Tab` キー (または、`Ctrl`+`□` キー) を押すと、次に入力可能なキーワード (コマンド、オプション、パラメーター) が一覧で表示されます。

`Tab` キーのみを押すと、トップレベルで使用可能なコマンドが表示されます。

Manager% <code>Tab</code>							
SHOW	SET	ENABLE	DISABLE	RESET	PING	RESTART	ADD
DELETE	CREATE	DESTROY	SAVE	QUIT	HELP	MENU	

コマンドを途中まで入力して `Tab` キーを押すと、そのコマンドに続く入力可能なキーワードが表示されます。

 コマンドを途中まで入力して `Tab` キーを押す場合は、`Tab` キーの前に半角スペースを入力します。

例として、SHOW コマンドに続けて `Tab` キーを入力します。

Manager% <code>show Tab</code>							
PORT	LOG	DIAG	SYSTEM	CONSOLE	IP	SNMP	SECURITY
IGMP	TRUNK	RRPS	HOL	MIRROR	VLAN	QOS	STP
FDB	USER	CONFIG	DEBUG				

## 3.4 設定を始める

### コマンド入力時の注意

- 1行で入力できるコマンドの最大文字数はスペースを含めて255文字です。
- コマンドは大文字・小文字を区別しません。  
ログインパスワードなど一部のパラメーターは大文字・小文字を区別します。「コマンドリファレンス」を確認して入力してください。
- コマンドは省略して入力することができます。  
他のコマンドと識別できる文字数までの省略が可能です。例えば、「SHOW PORT=ALL」は「SH P=A」と入力すれば実行できます。
- ユーザーレベルによって実行できるコマンドが異なります。  
MANAGERレベルはすべてのコマンドが実行可能です。一方、USERレベルで実行できるのは表示コマンドと一部の設定コマンドのみになります。詳しくは「コマンドリファレンス」で確認してください。
- 設定内容はコマンドの実行直後に反映されます(DHCPクライアント機能の有効・無効設定など一部のコマンドを除く)。  
ただし、設定内容は再起動すると消去されるので、再起動後にも同じ設定で運用したい場合はSAVEコマンドを実行します。

## メッセージ表示

コマンドの入力後、画面上には「Info」、「Error」、「Warning」の3つのレベルでメッセージが表示されます。「Error」が表示された場合、入力したコマンドは実行されていません。「Warning」は、入力したコマンドがすでに有効になっている場合などに表示されます。

- Info 例: コマンドが正しく実行された場合

```
Manager% set system name=sales 
```

```
Info: Operation successful
```

- Error 例: パラメーターに必要な値が入力されていない場合

```
Manager% set ip ipaddress= 
```

```
Error: Value missing on parameter <IPADDRESS>.
```

- Warning 例: 入力したコマンドがすでに有効になっている場合

```
Manager% enable telnet 
```

```
Warning: <TELNET> is already in ENABLE state.
```

## 表示内容が複数ページにわたる場合

表示される内容が複数ページにわたる場合は、画面下に次のような表示がされます。

```
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

この場合、キー入力によって、次のような操作を行うことができます。

機能	ターミナルのキー
次のページを表示する	<input type="text" value="スペース"/>
次の1行を表示する	<input type="text" value="Enter"/>
最後のページまで継続的に表示する	<input type="text" value="C"/>
残りのページを表示せず終了する	<input type="text" value="Q"/>

## 3.4 設定を始める

### オンラインヘルプ

本製品はオンラインヘルプを搭載しています。オンラインヘルプを使用するとコマンドの概要や、コマンドに続くパラメーターとその範囲を表示することができます。

- HELPコマンドを実行すると、使用できるすべてのコマンドが一覧で表示されます。

```
Manager% help help Enter
SHOW PORT[={port-list|ALL}]
SHOW PORT[={port-list|ALL}] COUNTER [REFRESH]
SHOW LOG { [ALL] | [BEGIN=time] [END=time] [COUNT=count] | [STATUS] }
SHOW DIAG
SHOW SYSTEM
SHOW CONSOLE
SHOW IP
SHOW IP FILTER [={PING|SNMP|TELNET|TFTP|FTP|ALL}]
SHOW SNMP
SHOW SECURITY
SHOW SECURITY PORT
SHOW IGMP
SHOW TRUNK
SHOW RRPS
SHOW HOL
SHOW MIRROR
SHOW VLAN[={vlanname|1..4094|ALL}]
SHOW VLAN PVID
SHOW VLAN MANAGEMENT
SHOW VLAN MODE
SHOW QOS
SHOW QOS PORT
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

- HELPに続けてコマンドを途中まで入力すると、入力したキーワードを含むコマンドの構文と、コマンドが1つに限定された場合は説明の一文が表示されます。

```
Manager% help set port Enter
Manager% help set port
SET PORT={port-list|ALL} [NAME=port-name]
                               [SPEED={AUTONEGOTIATE
                               | 10MHALF|10MFULL
                               | 100MHALF|100MFULL}]
                               [MDI={AUTO|MDI=|MDIX}]
                               [VLAN={vlanname|1..4094}]
Sets port(s) configuration.
```

---

## コマンドの表記

本書、オペレーションマニュアル(CD-ROM)、およびオンラインヘルプでは、コマンドやパラメーターを次のような構文で記載しています。

コマンドは複数のキーワードをスペースで区切り並べた構造になっています。

```
ADD VLAN={vlanname|1..4094} PORT={port-list|ALL} [FRAME={TAGGED|UNTAGGED}]
```

大文字	大文字の部分はコマンド名やパラメーター名などのキーワード(予約語)を示します。キーワードは大文字・小文字の区別がありません。
小文字	小文字の部分は変数を示します。コマンド入力時には、環境に応じて異なる値が入ります。大文字・小文字を区別するものもありますので、各パラメーターの説明を参照してください。
1..4094	x～yの範囲の数値を指定することを示すもので、変数の一種です。
{ }	{ }で囲まれた部分は、複数の選択肢からどれか1つを指定することを示します。選択肢の各項目は縦棒( )で区切られます。例えば、FRAME={TAGGED UNTAGGED}は、FRAMEパラメーターの値としてキーワードTAGGEDかUNTAGGEDのどちらか一方だけを指定することを示しています。
[ ]	[ ]で囲まれた部分は、省略可能であることを示します。1つのコマンドに複数の[ ]がある場合は、そのなかのどれか1つを指定しないとコマンドが成立しないものもあります。

---

## 3.4 設定を始める

### コマンド一覧

#### ポート設定コマンド

SHOW PORT	ポートステータスの表示
SET PORT	ポートの設定
ENABLE/DISABLE PORT	ポートの有効・無効
ENABLE/DISABLE PORT FLOW	フローコントロール機能の有効・無効
ENABLE/DISABLE PORT FORWARDING	ブロードキャストパケットフィルタリング機能の有効・無効

#### イーサネット統計情報コマンド

SHOW PORT COUNTER	イーサネット統計情報の表示
RESET PORT COUNTER	カウンターのリセット

#### システム管理コマンド

LOAD	Xmodem によるソフトウェアのダウンロード
TELNET	指定したシステムへの Telnet 接続
PING	指定したシステムへの Ping テスト
SHOW LOG	ログの表示、ログ設定情報の表示
ENABLE/DISABLE LOG	ログの開始・停止
SET LOG	syslog の設定
RESET LOG	ログの消去
SHOW DIAG	システム診断テストの結果表示
RESTART REBOOT	システムのリセット

#### システム設定コマンド

SHOW SYSTEM	システム情報の表示
SET SYSTEM	システム名、エージングタイム、設置場所、管理者の設定
SHOW USER	ユーザー情報の表示
ADD/DELETE USER	ユーザーの追加・削除
SET PASSWORD	ログインパスワードの変更
SET USER	登録ユーザーの設定変更
ENABLE/DISABLE TELNET	Telnet サーバー機能の有効・無効
SET TELNET	Telnet の TCP ポート番号の設定
ENABLE/DISABLE TFTP	TFTP サーバー機能の有効・無効
SET LOADER PASSWORD	TFTPによるソフトウェアPut/Get時のパスワードの設定
SET CONFIG PASSWORD	TFTPによる設定ファイルPut/Get時のパスワードの設定
ENABLE/DISABLE FTP	FTP サーバー機能の有効・無効



SHOW CONSOLE	コンソールターミナル情報の表示
ENABLE/DISABLE CONSOLE	ローカルコンソールの有効・無効
SET CONSOLE	ターミナルポートの設定
SHOW IP	IP パラメーター情報の表示
SET IP	IP パラメーターの設定
ENABLE/DISABLE DHCP	DHCP クライアント機能の有効・無効
SHOW IP FILTER	IP フィルター情報の表示
SET IP FILTER	IP フィルターエントリの変更
ENABLE/DISABLE IP FILTER	IP フィルター機能の有効・無効
ADD/DELETE IP FILTER	IP フィルターエントリの追加・削除
SHOW SNMP	SNMP 情報の表示
SET SNMP	SNMP の設定
SHOW SECURITY	ポートセキュリティー(システム全体)情報の表示
SHOW SECURITY PORT	ポートセキュリティー(ポート別)情報の表示
SET SECURITY	ポートセキュリティー(システム全体)の設定
SET SECURITY PORT	ポートセキュリティー(ポート別)の設定
SHOW IGMP	IGMP スヌーピング情報の表示
SET IGMP AGEINGTIMER	IGMP スヌーピング エージングタイムの設定
ENABLE/DISABLE IGMP	IGMP スヌーピング機能の有効・無効
SHOW TRUNK	ポートトランキング情報の表示
SET TRUNK	トランクグループの作成
SHOW RRPS	RRP スヌーピングポートの表示
SET RRPS PORT	RRP スヌーピングポートの設定
SHOW HOL	HOL ブロッキング防止機能有効・無効の表示
ENABLE/DISABLE HOL	HOL ブロッキング防止機能の有効・無効

## ポートミラーリングコマンド

SHOW MIRROR	ポートミラーリング情報の表示
SET MIRROR	ソースポート・ミラーポートの設定
ENABLE/DISABLE MIRROR	ポートミラーリング機能の有効・無効

## 3.4 設定を始める

### バーチャルLAN/QoS コマンド

SHOW VLAN	VLAN 名、VID、所属ポートの表示
SHOW VLAN PVID	PortVID 情報の表示
SHOW VLAN MANAGEMET	マネージメントポートの表示
SHOW VLAN MODE	現在の VLAN モードの表示
CREATE/DESTROY VLAN	VLAN の作成・消去
ADD/DELETE VLAN PORT	所属ポートの追加・削除
SET VLAN VLAN	VLAN 名、VID の変更
SET VLAN PORT FRAME	ポートのタグ付き・タグ無し設定変更
SET VLAN PORT PVID	PortVID の変更
SET VLAN MANAGEMET	マネージメントポートの変更
SET VLAN MODE	VLAN モードの変更
SHOW QOS	プライオリティウェイト情報の表示
SHOW QOS PORT	ポートプライオリティ情報の表示
SET QOS WEIGHT	プライオリティウェイトの設定
SET QOS PORT	ポートプライオリティの設定

### ブリッジ(スパンニングツリー)コマンド

SHOW STP	スパンニングツリー情報の表示
SHOW STP PORT	ポートスパンニングツリー情報の表示
SET STP	スパンニングツリーの設定
SET STP PORT	ポートスパンニングツリーの設定
ENABLE/DISABLE STP	スパンニングツリー機能の有効・無効

### MAC アドレステーブルコマンド

SHOW FDB	MAC アドレステーブルの表示
RESET FDB	MAC アドレステーブルの消去
ADD/DELETE FDB DESTADDRESS	スタティック MAC アドレスの追加・削除

### ユーティリティコマンド

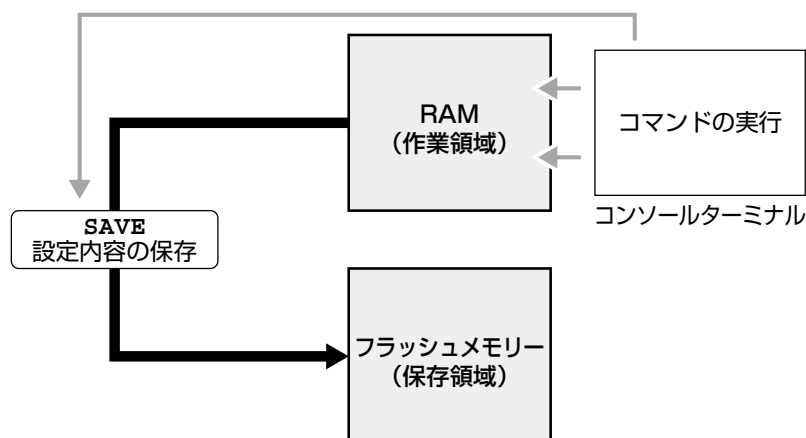
SHOW CONFIG	設定スクリプトの表示
SHOW DEBUG	SHOW LOG ALL/SHOW DIAG/SHOW CONFIGの実行
SAVE	設定の保存
QUIT	ログアウト
HELP	コマンドの表示
MENU	メニュー画面に移動

## 3.5 設定を保存する

### 設定を保存する

入力したコマンドは実行直後に反映されますが、設定内容はランタイムメモリー (RAM) 上にあるため、電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、または RESTART REBOOT コマンドを実行してシステムを再起動すると消去されます。

再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、SAVE コマンドを実行して設定内容をフラッシュメモリーに保存します。



### 使用コマンド

SAVE

### 権限

Manager, User

- 1 SAVE コマンドを実行します。

```
Manager% save [Enter]
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、**Y**キーを押します。  
**N**キーを押すと、設定の保存は中止されます。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 3 設定がフラッシュメモリーに書き込まれると、次のメッセージが表示され、コマンドプロンプトに戻ります。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

```
Manager%
```

設定の変更が何もないときに SAVE コマンドを実行すると、次のような警告のメッセージが表示されます。

```
Warning: Configuration is not updated.
```

## 3.5 設定を保存する

### 設定内容を確認する

SHOW CONFIG コマンドで、現在の設定内容を設定スクリプトの形式で表示します。オプションで表示する機能の指定もできます。

#### 使用コマンド

```
SHOW CONFIG [ALL] [FUNC=functions]
```

#### 権限

Manager

#### パラメーター

- ALL : デフォルト設定を含めたすべての設定内容を表示します。省略した場合は、デフォルト設定から変更した項目のみを表示します(各機能のタイトルは全項目表示されます)。
- FUNC : 指定した機能の設定内容のみを表示します。functions には、PORT, SYSTEM, LOG, CONSOLE, IP, IPFILTER, SNMP, SECURITY, IGMP, TRUNK, RRPS, HOL, VLAN, QOS, STP, FDB, USER, ALL の指定が可能です。

```
Manager% show config func=ip   
##  
## kanashio Configuration.  
##  
## Copyright (c) 2002, Allied Telesis K.K.  
## All Rights Reserved.  
##  
  
#  
# IP Address Configuration  
#  
SET IP IPADDRESS=192.168.1.1  
SET IP MASK=255.255.255.0  
SET IP GATEWAY=192.168.1.32  
ENABLE DHCP
```

## 3.6 システムを再起動する

設定変更を行った後は、システムを再起動します(ポートミラーリング設定を除く)。

### 使用コマンド

RESTART REBOOT

### 権限

Manager

- 1 RESTART REBOOTコマンドを実行します。

```
Manager% restart reboot 
```

- 2 再起動するときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、キーを押してください。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 3 システムを再起動するかどうかのメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do reboot system now ? (Yes or No): Yes
```

- 4 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu」と表示されたら、再起動は完了です。キーを押してください。

```
(press RETURN once or twice to enter Main Menu)
```

- 5 「Login:」プロンプトが表示されます。

## 3.7 ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了します。

### 使用コマンド

QUIT

### 権限

Manager, User

- 1 QUIT コマンドを実行します。

```
Manager% quit [Enter]
```

- 2 次のメッセージが表示され、セッションが終了します。

```
Quit  
  
Good Bye
```

ログアウトするときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、**Y**キーを押してください。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```



セキュリティのため、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了する前に、必ず QUIT コマンドでログアウトしてください。

## 3.8 基本の設定と操作

ここでは、本製品の基本的な設定と操作について説明します。詳細については、オペレーションマニュアル(CD-ROM)を参照してください。

### IP アドレスを設定する

#### 手動で IP アドレスを設定する

##### 使用コマンド

```
SET IP [IPADDRESS=ipadd]
      [MASK=ipadd]
```

```
SHOW IP
```

##### 権限

```
SET IP      Manager
SHOW IP     Manager, User
```

##### パラメーター

IPADDRESS : IP アドレス。X.X.X.X の形式で、X が 0～255 の半角数字を入力します。デフォルトは Null です。Null に戻す場合は 0.0.0.0 を指定します。

MASK : サブネットマスク。X.X.X.X の形式で、X が 0～255 の半角数字を入力します。デフォルトは Null です。Null に戻す場合は 0.0.0.0 を指定します。

- 1 本体に IP アドレスを設定します。  
ここでは、IP アドレス「192.168.1.10」、サブネットマスク「255.255.255.0」を設定すると仮定します。

```
Manager% set ip ipaddress=192.168.1.10 mask=255.255.255.0 
```

- 2 SHOW IP コマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show ip 

IP Address Information
-----
IP address ..... 192.168.1.10
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... Null
Domain Name Server ..... Null
Default Domain Name ..... Null (not configured)
Manager address 1 ..... Null
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null
DHCP function ..... Disabled
-----
```

## 3.8 基本の設定と操作

### DHCPでIPアドレスを自動設定する

ネットワーク上のDHCPサーバーを利用して、本体のIPアドレスを自動設定することもできます(DHCPクライアント機能)。DHCPクライアント機能はデフォルトで無効(Disabled)に設定されています。

**i** SET IP コマンドでIPアドレスを設定している場合は、ENABLE DHCP コマンドでDHCPクライアント機能を有効にしても、SET IP コマンドの設定が優先されません。DHCPクライアント機能を有効にするには、SET IP コマンドでIPアドレスをNull(0.0.0.0)に戻してください。

```
set ip ipaddress=0.0.0.0 mask=0.0.0.0
```

**i** DHCPクライアント機能の有効・無効設定は、システムの再起動後に有効になります。

#### 使用コマンド

ENABLE DHCP

SHOW IP

#### 権限

ENABLE DHCP      **Manager**

SHOW IP            **Manager, User**

- 1 SHOW IP コマンドでIPアドレスがNullであることを確認します。すでに手動でIPアドレスが割り当てられている場合は、次のコマンドでNullに戻します。

```
Manager% set ip ipaddress=0.0.0.0 mask=0.0.0.0 
```

- 2 DHCPクライアント機能を有効にします。

```
Manager% enable dhcp 
```

- 3 設定を保存するかどうかのメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do save configuration now ? (Yes or No): Yes
```

- 4 システムを再起動するかどうかのメッセージが表示されたら、キーを押します。

```
Do reboot system now ? (Yes or No): Yes
```



- 5** 再起動後、DHCP サーバーから自動的に IP アドレスが割り当てられます。  
本製品のDHCPクライアント機能では、IPアドレス、サブネットマスクに加え、DNS  
サーバーアドレスとデフォルトドメインネームの情報も取得・自動設定できます。

```
Manager% show ip 

IP Address Information
-----
IP address ..... 192.168.1.200 (From DHCP)
Subnet mask ..... 255.255.255.0
Gateway address ..... 192.168.1.32
Domain Name Server ..... 192.168.1.1
Default Domain Name ..... ultra.allied-telesis.co.jp
Manager address 1 ..... Null
Manager address 2 ..... Null
Manager address 3 ..... Null
Manager address 4 ..... Null
DHCP function ..... Enabled
-----
```

## 3.8 基本の設定と操作

### Telnet を使用する

#### Telnet でログインする

本製品のTelnetサーバー機能はデフォルトで有効(Enabled)になっています。本体にIPアドレスを設定すれば、他のTelnetクライアントからネットワーク経由でログインできます。


Telnetクライアントに設定するパラメーターは次のとおりです。

項目	値
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Delete

- 1 通信機能が利用できるコンピューターから、本製品に対してTelnetを実行します。ここでは、本製品にあらかじめIPアドレス「192.168.1.10」が割り当てられているものとします。

```
telnet 192.168.1.10 
```

- 2 Telnetセッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。

 Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NTでTelnetを使用する場合は、84ページ「Telnetクライアントの設定」を参照してください。

#### Telnetサーバー機能を無効にする

Telnet接続を拒否する場合は、DISABLE TELNETコマンドでTelnetサーバー機能を無効にします。

#### 使用コマンド

```
DISABLE TELNET
```

#### 権限

```
Manager
```

```
Manager% disable telnet 
```

## Telnet サーバーの TCP ポート番号を変更する

Telnetサーバーのリスニング TCP ポート番号を変更することができます。デフォルトは23です。

### 使用コマンド

```
SET TELNET [TCPPOINT=2..32767]
```

### 権限

Manager

### パラメーター

TCPPOINT : TelnetサーバーのTCPポート番号。2～32767の半角数字を入力します。デフォルトは23です。

```
Manager% set telnet tcpport=120 [Enter]
```

## 他のシステムに Telnet 接続する

本体前面のターミナルポートに接続したコンソールターミナルから、他のシステムに対してTelnet接続することができます。接続先の指定には、IPアドレスの他、システム名、MACアドレスが使用できます。ここでは、接続先のシステムを「192.168.1.20」と仮定します。

### 使用コマンド

```
TELNET { [IPADDRESS=] ipadd | [MACADDRESS=] macadd | [HOSTNAME=] host }  
[TCPPOINT=tcpport-number]
```

### 権限

Manager

### パラメーター

IPADDRESS : IPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xが0～255の半角数字を入力します。  
MACADDRESS : MACアドレス。XXXXXXXXXXXXの形式で指定します。  
HOSTNAME : ホスト名(システム名)。半角英数字で指定します。  
TCPPOINT : 接続先のTCPポート番号。半角数字で指定します。指定がない場合はポート23へ接続します。

## 1 Telnetコマンドを実行します。

```
Manager% telnet 192.168.1.20 [Enter]
```

次のメッセージが表示されます。

```
Connecting to 192.168.1.20 ...
```

## 3.8 基本の設定と操作

- 2 Telnetセッションが確立すると、「Login:」プロンプトが表示されます。

Telnetセッションを終了するには、QUIT コマンドを実行します。

```
Manager% quit [Enter]
```

```
Quit
```

```
Good Bye
```

```
Disconnected
```

```
Manager%
```



Telnetでログインしているシステムから、さらにTelnet接続をすることはできません。

## ファイルをアップロード・ダウンロードする

本製品は、ソフトウェアのイメージファイルや設定スクリプトファイルを、TFTPやFTPを使用してアップロード・ダウンロードすることができます。

- ソフトウェアのイメージファイル  
ファイル名「ats50j.img」  
ダウンロードパスワード「ATS50」（TFTPクライアントのリモートファイル名）
- 設定スクリプトファイル  
ファイル名「config.txt」 / 「config.img」  
ダウンロードパスワード「config」（TFTPクライアントのリモートファイル名）
- ログファイル（FTP getのみ対応）  
ファイル名「syslog.txt」

## FTPでアップロード・ダウンロードする

本製品のFTPサーバー機能を使用して、ファイルをアップロード・ダウンロードします。以下の説明は次のような仮定で行います。

- 本製品(FTPサーバー)のIPアドレス「192.168.1.10」
- ユーザー名「Manager」・ログインパスワード「friend」
- ローカルホストのディレクトリー「C:¥temp」

- 1 SHOW SYSTEMコマンドで本製品のFTPサーバー機能が有効(Enabled)か確認します。デフォルトは有効(Enabled)です。

```
Manager% show system Enter

System Information
-----
System name ..... kanashio
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
  Status ..... Enabled
  TCP port ..... 23/tcp

TFTP
  Status ..... Enabled
  Download Password ..... ATS50
  Config Download Password ..... config

FTP
  Status ..... Enabled
-----
```

## 3.8 基本の設定と操作

- 2 ローカルホスト(コンピューター)からPINGコマンドを実行して、本製品と通信が可能なかを確認します。

```
C:\temp>ping 192.168.1.10 [Enter]
```

- 3 ローカルホストからFTPコマンドを実行して、本製品のFTPサーバーに接続します。

```
C:\temp>ftp 192.168.1.10 [Enter]
```

- 4 ユーザー名とパスワードを入力して本製品にログインします。

```
Connected to 192.168.1.10.  
220 "kanashio" FTP server ready  
User (192.168.1.10:(none)): manager [Enter]  
331 Password required for manager  
Password: friend(表示されません) [Enter]  
230 User logged in.
```

- 5 ファイルをアップロード(本製品→FTPクライアント)する場合は「get」を、ダウンロード(FTPクライアント→本製品)する場合は「put」を実行します。ここでは、ソフトウェアのイメージファイルを本製品にダウンロードするものとします。


```
ftp> put ats50j.img [Enter]
```

- 6 ファイルの転送が行われます。

```
200 PORT command successful.  
150 Opening ASCII mode data connection for ATS50J.IMG.  
226 Transfer Complete.  
ftp: 687672 bytes sent in 5.22Seconds 131.74Kbytes/sec.
```


- 7 ローカルホストからFTPサーバーへの接続を切断します。

```
ftp> bye [Enter]
```

-  ローカルホストから明示的に切断しないと、FTPサーバーでタイムアウト(5分)が発生し、本製品は強制的に接続を切断します。この場合、ダウンロードしたファイルは無効となりますので、ご注意ください。

- 8 ダウンロードの場合、本製品はフラッシュメモリーへの書き込み後、自動的に再起動します。

```
Manager%
Please wait for FLASH writes to complete.
This may take up to 3 minute.
Do not reset, do not remove power.
The system will automatically reboot.
```

-  本製品が再起動するまでの間は、絶対に電源を切らないでください。フラッシュメモリーへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。

## TFTPでアップロード・ダウンロードする

本製品のTFTPサーバー機能を使用して、ファイルをアップロード・ダウンロードします。以下の説明は次のような仮定で行います。

- 本製品(TFTPサーバー)のIPアドレス「192.168.1.10」

- 1 SHOW SYSTEMコマンドで本製品のTFTPサーバー機能が有効(Enabled)か確認します。デフォルトは有効(Enabled)です。

```
Manager% show system 

System Information
-----
System name ..... kanashio
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)
Location ..... Null (not configured)
Contact ..... Null (not configured)

TELNET
  Status ..... Enabled
  TCP port ..... 23/tcp

TFTP
  Status ..... Enabled
  Download Password ..... ATS50
  Config Download Password ..... config

FTP
  Status ..... Enabled
-----
```

## 3.8 基本の設定と操作

- 2 ローカルホストのコンピューターからPINGコマンドを実行して、本製品と通信が可能なかを確認します。

```
C:\temp>ping 192.168.1.10 [Enter]
```

- 3 ファイルをアップロード(本製品→TFTPクライアント)する場合は「get」を、ダウンロード(TFTPクライアント→本製品)する場合は「put」を実行します。リモートファイル名には、本製品に設定されているダウンロードパスワードを指定します(ダウンロードパスワードは大文字・小文字を区別します)。また、ソフトウェアのイメージファイルの場合、転送モードにバイナリー(binary)を指定します。ここでは、設定スクリプトファイルをC:\tempにアップロードするものとします。


```
C:\temp>tftp 192.168.1.10 get config config.txt [Enter]
```

- 4 ファイルの転送が行われます。

```
Transfer successful: 1188 bytes in 1 second, 1188 bytes/s
```

- 5 ダウンロードの場合、本製品はフラッシュメモリーへの書き込み後、自動的に再起動します。

```
Manager%  
Please wait for FLASH writes to complete.  
This may take up to 3 minute.  
Do not reset, do not remove power.  
The system will automatically reboot.
```

-  本製品が再起動するまでの間は、絶対に電源を切らないでください。フラッシュメモリーへの書き込み中に電源を切ると、本製品を起動できなくなる可能性があります。



## システム名を設定する

システム名(MIB IIオブジェクト sysName)を設定すると、複数のシステムを管理する場合に、各システムの識別がしやすくなり便利です。

### 使用コマンド

```
SET SYSTEM [NAME=system-name]
```

```
SHOW SYSTEM
```

### 権限

```
SET SYSTEM      Manager
```

```
SHOW SYSTEM     Manager, User
```

### パラメーター

NAME : システム名。1～20文字の半角英数字およびアンダーバー(\_)を入力します。空白を含む場合はダブルクォート(")で囲みます。表示は大文字・小文字の区別を反映します。デフォルトはNullです。Nullに戻す場合はNAMEパラメーターに値を入れずにコマンドを実行します。

- 1 SET SYSTEMコマンドを実行します。ここでは、システム名に「WhiteTale」を設定すると仮定します。

```
Manager% set system name=WhiteTale 
```

- 2 SHOW SYSTEMコマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show system   
  
System Information  
-----  
System name ..... WhiteTale  
MAC Aging Time ..... 300 (seconds)  
Location ..... Null (not configured)  
Contact ..... Null (not configured)  
  
TELNET  
Status ..... Enabled  
TCP port ..... 23/tcp  
  
TFTP  
Status ..... Enabled  
Download Password ..... ATS50  
Config Download Password ..... config  
  
FTP  
Status ..... Enabled  
-----
```

## 3.8 基本の設定と操作

### SNMP による管理のための設定をする

本製品のSNMP機能は常に有効(Enabled)のため、IPアドレスとサブネットマスクを設定すれば、SNMPマネージャーによる管理・設定が可能です。ここでは、本製品からSNMPトラップを送信するための設定を説明します。

#### 使用コマンド

```
SET SNMP [GETCOMMUNITY=get-community-string]
        [SETCOMMUNITY=set-community-string]
        [TRAPCOMMUNITY=trap-community-string]

SET IP [MANAGER1=ipadd]
       [MANAGER2=ipadd]
       [MANAGER3=ipadd]
       [MANAGER4=ipadd]

SHOW SNMP
```

#### 権限

```
SET SNMP      Manager
SET IP        Manager
SHOW SNMP     Manager, User
```

#### パラメーター

- GETCOMMUNITY : SNMPのGetに設定するコミュニティー名。1～20文字の半角英数字を入力します。コミュニティー名は大文字・小文字を区別します。デフォルトはpublicです。
- SETCOMMUNITY : SNMPのSetに設定するコミュニティー名。1～20文字の半角英数字を入力します。コミュニティー名は大文字・小文字を区別します。デフォルトはprivateです。
- TRAPCOMMUNITY : SNMPのTrapに設定するコミュニティー名。1～20文字の半角英数字を入力します。コミュニティー名は大文字・小文字を区別します。デフォルトはpublicです。
- MANAGER1～4 : SNMPトラップ送信先ホスト(=トラップホスト)のIPアドレス。X.X.X.Xの形式で、Xが0～255の半角数字を入力します。デフォルトはNullです。Nullに戻す場合は0.0.0.0を指定します。トラップホストは最大4個まで登録できます。

- 1 SET SNMPコマンドでSNMPコミュニティー名を設定します。  
デフォルトのコミュニティー名は不正アクセスに利用される可能性が高いため、変更することをお勧めします。ここでは、Getコミュニティー名を「SwimView」、Setコミュニティー名を「SwimManager」、Trapコミュニティー名を「syslog」と仮定します。

```
Manager% SET SNMP GETCOMMUNITY=SwimView SETCOMMUNITY=SwimManager
TRAPCOMMUNITY=syslog 
```

- 2** SET IP コマンドでトラップホストを設定します。  
トラップホストを設定しないと、本製品からSNMPトラップは送信されません。ここでは、トラップホスト(MANAGER1)のIPアドレスを「192.168.1.5」と仮定します。

```
Manager% set ip manager1=192.168.1.5 
```

- 3** SHOW SNMP コマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show snmp   
  
SNMP Information  
-----  
Manager address 1 ..... 192.168.1.5  
Manager address 2 ..... Null  
Manager address 3 ..... Null  
Manager address 4 ..... Null  
  
Get community string ..... SwimView  
Set community string ..... SwimManager  
Trap community string ..... syslog
```

## 3.8 基本の設定と操作

### SNMP トラップごとに送信先ホストを設定する

トラップごとに送信先のトラップホスト (MANAGER 1~4) を設定できます。デフォルトは ALL で、登録されているすべてのトラップホストに送信するよう設定されています。

本製品がサポートする SNMP トラップは以下のとおりです。

トラップ名	内容
Cold Start	ハードウェアリセット時に発行
Change Port Link	ポートのリンクアップ・ダウン時に発行
Authentication Failure	異なるSNMPコミュニティ名のメッセージ受信時に発行
Over-Temperature	システム内の温度異常検出時に発行
Fan	ファンの異常検出時に発行
New Root	スパニングツリーにおいて、新しいルートへの切り替わり時に発行
Topology Change	スパニングツリーにおいて、トポロジー変更の発生時に発行
Intruder Alert	ポートセキュリティにおいて、不正パケット受信時に発行
Power Supply Outage	スイッチ本体とリダundant電源装置 (CentreCOM RPS8100) の電源切り替わり時に発行
Rps Fan Fail	リダundant電源装置 (CentreCOM RPS8100) のファンの異常検出時に発行

#### 使用コマンド

```
SET SNMP [COLDSTART={1..4 | ALL}]
          [CHANGEPORT={1..4 | ALL}]
          [AUTHENTICATION={1..4 | ALL}]
          [OVERTEMPERATURE={1..4 | ALL}]
          [FAN={1..4 | ALL}]
          [NEWROOT={1..4 | ALL}]
          [TOPOLOGY={1..4 | ALL}]
          [INTRUDER={1..4 | ALL}]
          [POWEROUTAGE={1..4 | ALL}]
          [RPSFANFAIL={1..4 | ALL}]
```

```
SHOW SNMP
```

#### 権限

```
SET SNMP      Manager
SHOW SNMP     Manager, User
```

#### パラメーター

TRAP : トラップホスト番号 (SET IP コマンドの MANAGER 1~4 パラメーターで設定)。1~4 の半角数字を入力します。連続する複数の番号を指定する場合は「1-3」のようにハイフンを使用します。連続しない複数の番号を指定する場合は「1,3」のようにカンマを使用します。0 (ゼロ) を指定すると該当のトラップは無効になります。デフォルトは ALL です。

- 1 ポートのリンクアップ・ダウン時に発行されるトラップ(CHANGEPURT)の送信先ホストをMANAGER1と3に設定します。

```
Manager% set snmp changeport=1,3 
```

- 2 SHOW SNMPコマンドで、設定を確認します。

```
Manager% show snmp   
  
SNMP Information  
-----  
Manager address 1 ..... 192.168.1.5  
Manager address 2 ..... 192.168.1.6  
Manager address 3 ..... 192.168.1.7  
Manager address 4 ..... 192.168.1.8  
  
Get community string ..... SwimView  
Set community string ..... SwimManager  
Trap community string ..... syslog  
  
Cold Start ..... ALL  
Change Port Link ..... 1,3  
Authentication Failure ..... ALL  
Over-Temperature ..... ALL  
Fan ..... ALL  
New Root ..... ALL  
Topology Change ..... ALL  
Intruder Alert ..... ALL  
Power Supply Outage ..... ALL  
Rps Fan Fail ..... ALL  
-----
```

## 3.8 基本の設定と操作

### メニュー形式で設定する

本製品は、コマンドライン形式とメニュー形式の2種類のインターフェースをサポートしています。本体起動時(ログイン時)はコマンドラインインターフェースですが、MENUコマンドの実行により、メニュー画面に移動することができます。

#### 使用コマンド

MENU

#### 権限

Manager

- 1 MENU コマンドを実行します。

```
Manager% menu [Enter]
```

- 2 ただちにメニュー画面に移動します。

```
Allied Telesis CentreCOM 8224SL Ethernet Switch: 4.0.0J

Main Menu

Command line interface

Port status and configuration

Ethernet statistics

Administration

System configuration

Traffic/Port Mirroring

Virtual LANs/QoS

Bridging

MAC Address Table

Quit
```

コマンドラインインターフェースに戻るには、[Command line interface] オプションを選択します。回を入力して[Enter]キーを押してください。

## 画面の表示

現在「有効」(Enabled)に設定されているオプションには、「>」マークがついています。選択するオプションは、ハイライトで表示されます。

## オプションを選択する

選択するオプションの頭文字を入力して(大文字・小文字の区別なし)、ハイライト表示させ、**[Enter]**キーを押します。

同じ頭文字を持つオプションが2つ以上ある場合は、頭文字を複数回入力するか、**[↑]**(上)と**[↓]**(下)の方向キーを使用して、選択するオプションをハイライト表示させます(通信ソフトウェアによっては、方向キーが使用できない場合があります)。

ポート番号など数字のオプションは、数字を入力してハイライト表示させ、**[Enter]**キーを押します。一桁の数字と二桁の数字がある場合は、二桁で入力します。例えば、「1」を選択する場合は「01」と入力します。

## 数字や名前を入力・削除する

オプションを選択し、「->」プロンプトの後に数字や名前を半角英数字で入力して、**[Enter]**キーを押します。

オプションを選択したときに入力画面に移動する場合と、オプションの入力フィールドに「->」プロンプトが表示される場合があります。

数字や名前を削除する(Nullに設定する)場合は、「->」プロンプトの後に(現在設定されている数字や名前の上から)**[Space]**を入力して、**[Enter]**キーを押します。

アドレスを削除する場合は「0.0.0.0」を入力して、**[Enter]**キーを押します。

## 画面を移動する

前の画面に戻る場合は、画面一番下の [Return to~...] オプションを選択するか、**[Esc]**キーを押します。

表示項目が一画面におさまりきらない場合は、画面下に [More...] オプションが表示されます。次の画面を表示するには、この [More...] オプションを選択して、**[Enter]**キーを押します。

## 3.8 基本の設定と操作

### 設定を保存する

設定の変更を行うと、メインメニューの [Quit] が [Quit / Save] の表示に変わります。再起動後にも同じ設定で運用したい場合は、[Save] を選択して設定内容をフラッシュメモリーに保存します。

- 1 メインメニューで [Save] を選択します。  
Ⓢを入力して **[Enter]** キーを押してください。
- 2 画面下に次のメッセージが表示されたら、**[Y]** キーを押します。  
**[N]** キーを押すと、設定の保存は中止されます。

```
Is configuration saved? (Yes or No): Yes
```

- 3 設定がフラッシュメモリーに書き込まれると、次のメッセージが表示され、メインメニューの画面が更新されます ([Quit / Save] が [Quit] の表示に戻ります)。

```
Waiting for Flash writes... done.
```

### ログアウトする

設定が終了したら、本製品からログアウトして、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)を終了します。

- 1 メインメニューで [Quit] を選択します。  
Ⓢを入力して **[Enter]** キーを押してください。
- 2 次のメッセージが表示され、セッションが終了します。

```
Quit  
  
Good Bye
```

ログアウトするときに設定の変更が保存されていないと、次のメッセージが表示されます。設定を保存する場合は、**[Y]** キーを押してください。

```
Warning: Configuration is updated. However, it is not saved at Flash Memory.
```

```
Is configuration saved? (Yes or No): Yes
```



## 工場出荷時設定に戻す

設定内容を消去し、システムをデフォルト設定に戻します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、またはRESTART REBOOT コマンドを実行して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software」と表示されている間に任意のキーを押して、Bootメニュー(ATI Diagnostic\$)を表示します。

```
ATI Diagnostics

Model: AT-8224SL, Revision Level: 31
MAC Address: 0000F4272821/0000F4272821

Select an option:

R: RAM Tests
U: UART Tests
A: All of the above Tests
C: Continuous Tests
> S: Single Test

O: Other System Tests
B: BOOT System Software
X: XMODEM download updated System Software

D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Byte/Word/Dword
P: Port I/O
Z: Change Terminal Speed

->
```

- 3 「->」プロンプトに続けて回を入力し、「D: Restore all configuration data to factory default\$」オプションを選択します。
- 4 次のメッセージが表示されたら、Yを入力します。


```
WARNING: This will erase all current configuration data!Continue ? (Y/N)
```

## 3.8 基本の設定と操作

- 5 すべての設定内容がデフォルト設定に戻ると、再び「->」プロンプトが表示されます。「->」プロンプトに続けて0を入力し、[B: BOOT System Software] オプションを選択します。

```
All configuration data has been reset to factory default values.
```

```
->
```

- 6 Bootプログラムが起動し、セルフテストを行った後システムソフトウェアを起動します。「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、キーを押します。

- 7 「Login:」プロンプトが表示されます。



工場出荷時設定にリセット中、およびBoot中は、絶対に電源を切らないでください。

## 3.9 デフォルト設定

本製品のデフォルト設定の一覧です。

設定	デフォルト
<b>ポート設定</b>	
通信モード	Auto negotiate
MDI/MDI-X自動切替	Auto MDISet
フローコントロール	バックプレッシャー : Disabled IEEE 802.3x PAUSE : Disabled
ブロードキャストパケットフィルタリング	Forwarding
ポート名	Null
<b>システム管理</b>	
ログ	Enabled
syslogサーバーアドレス	Null
syslogファシリティコード	1 (user-level message)
<b>システム設定</b>	
システム名	Null
エージングタイム	300 (seconds)
設置場所 (Location)	Null
管理者 (Contact)	Null
Telnetサーバー機能	Enabled
Telnet TCPポート番号	23
TFTPサーバー機能	Enabled
ソフトウェア ダウンロードパスワード	ATS50
設定ファイル ダウンロードパスワード	config
FTPサーバー機能	Enabled
登録ユーザー	Manager
ログインパスワード	friend
コンソールターミナル設定	8 data bits / 1 stop bit / No parity Full duplex (echo) / 9600 bps
セッションタイムアウト	5 (minutes)
ローカルコンソール	Enabled
IPアドレス	Null
サブネットマスク	Null
ゲートウェイアドレス	Null
デフォルトドメイン名	Null
SNMPマネージャー (トラップホスト) 1~4	Null
DHCPクライアント機能	Disabled

## 3.9 デフォルト設定

設定	デフォルト
IPフィルター	Disabled
IPフィルター デフォルトアクション	EXCLUDE
Get コミュニティー名	public
Set コミュニティー名	private
Trap コミュニティー名	public
ポートセキュリティー (モード)	Automatic
IGMPスヌーピング	Disabled
IGMPスヌーピングエイジングタイム	60 (minutes)
ポートランキング	Null
RRPスヌーピング	Null
HOLブロッキング防止	Disabled
ポートミラーリング	Disabled
<b>バーチャルLAN/QoS</b>	
VLANモード	802.1Q Tag Vlan
VLAN名	Default VLAN
ポートプライオリティー	Tag Priority : Use Port Priortiry : Normal
プライオリティーウェイト	Mode 4 (High-6 : Normal-1)
マネージメントポートの所属VLAN	ID=1 (Default VLAN)
<b>ブリッジ (スパニングツリー)</b>	
スパニングツリー	Disabled
ブリッジプライオリティー	32768
Max age time	20 (seconds)
Hello time	2 (seconds)
Forwarding delay	15 (seconds)
ポートプライオリティー	128
ポートパスコスト	10

# 4

## 付 録

---

この章では、トラブル解決、WindowsのハイパーターミナルとTelnetアプリケーションの使用方法、オプションの拡張モジュールとリダンダント電源装置の装着手順、本製品の仕様について説明しています。

# 4.1 困ったときに

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの解決方法を紹介します。

## セルフテストの結果を確認する

本製品は、セルフテスト(自己診断)機能を備えています。起動時にセルフテストを行い、本体やソフトウェアに異常が発生したときには、そのテスト結果を画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。

項目	内容
Flash PROM	フラッシュPROMの状態です。Good/Failedで表示します。
RAM	RAMの状態です。Good/Failedで表示します。
Serial Interface	シリアルインターフェースの状態です。Good/Failedで表示します。
System power	本体の5V/3.3V/2.5V各電源ユニットの供給電圧です。Vで表示します。
ModuleA / B 5V power	拡張モジュール用の5V電源ユニットの供給電圧です。Vで表示します。
RPS Cable Connection	本体とリダundant電源装置 (CentreCOM RPS8100) のDC電源ケーブルによる接続状態です。Connected (接続) /Not Connected (未接続) で表示します。
Main / Redundant PSU	本体とリダundant電源装置の電源状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。
Redundant PSU Fan	リダundant電源装置のファンの状態です。Good/FanFail/Not Present (リダundant電源装置未接続、または電源オフ) で表示します。
Fan#1~Fan#2	ファンの回転数です。RPMで表示します。
Temperature	システム内の温度です。℃で表示します。

## LED表示を確認する

### ポートLED

各ポートの状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立されていません。
C/D	緑	点灯	Full duplexでリンクが確立しています。
		点滅	Half duplexでリンクが確立しています。
	橙	点灯	コリジョンが発生しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
—	消灯	リンクが確立されていません。	

## ステータス LED

システム全体の状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	システム、または内蔵ソフトウェアに異常があります。
		点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) フラッシュROMに書き込みを行っています。(運用時) Xmodem経由でファイルを転送中です。
	—	消灯	システムに異常はありません。
RPS	緑	点灯	リダンダント電源装置の電源ユニットに電源が供給されています。
	—	消灯	リダンダント電源装置の電源ユニットに電源が供給されていません。
MAIN-PS	緑	点灯	本体の電源ユニットに電源が供給されています。
	—	消灯	本体の電源ユニットに電源が供給されていません。

## トラブル例

### 電源を投入したが、MAIN-PS LED が点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか。

AC 100-120V 50/60Hzの電源電圧で使用する場合は、必ず、同梱の電源ケーブルを使用してください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか。

電源コンセントには、電源が供給されていますか。

### ネットワークケーブルを接続しても L/A LED が点灯しない

UTP ケーブルのカテゴリーは正しいですか。

ケーブルは 10BASE-T の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー 5 の UTP ケーブルを使用してください。

UTP ケーブルのタイプは正しいですか。

本製品は、MDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしているため、通信モードがオートネゴシエーションの場合は、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレート/クロスどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

通信モードをオートネゴシエーション以外に固定設定する場合は、MDI または MDI-X のどちらかに設定する必要がありますので、その場合はケーブルタイプに注意してください。接続先のポートが MDI の場合は本製品のポートを MDI-X に、接続先のポートが MDI-X の場合は本製品のポートを MDI に設定すれば、ストレートタイプでケーブル接続ができます。

## 4.1 困ったときに

UTP ケーブルの長さが制限を越えていませんか。


10BASE-T/100BASE-Tの場合、ケーブル長は最大 100mと規定されています。

接続先の機器に電源は投入されていますか。

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか。


通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか。


本製品はソフトウェア (SET PORT コマンド) でポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、正しい組み合わせになるように設定してください。

 オペレーションマニュアル「ポートの設定」

FAULT LED は点灯していませんか。

本体に異常が発生した場合は、FAULT LED が点灯したままになります。本体前面のリセットボタンを押す、RESTART REBOOT コマンドを実行する、電源ケーブルを接続しなおすなどして本体を再起動してください。


 45 ページ「システムを再起動する」

 オペレーションマニュアル「システムリセット」

### L/A LED は点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか。

SHOW PORT コマンドでポートステータス (Status) を確認してください。

 オペレーションマニュアル「ポートステータスの表示」

### コンソールターミナルに文字が入力できない

RS-232 ケーブルは正しく接続されていますか。

通信ソフトウェアを 2 つ以上同時に起動していませんか。

同一の COM ポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COM ポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容 (通信条件) は正しいですか。

本製品を接続している COM ポート名と、通信ソフトウェアで設定している COM ポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度が本製品と通信ソフトウェアで一致しているかを確認してください。

本製品の通信速度はデフォルトで 9,600bps に設定されています。



## コンソールターミナルで文字化けする

通信ソフトウェアの通信速度は正しいですか。

通信ソフトウェアでシリアルポートの速度が9,600bpsに設定されているかを確認してください。本製品の通信速度がデフォルトの設定で、通信ソフトウェアの通信速度が9,600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか。


全角文字や半角カナは、入力しないでください。通常、AT互換機では **[Alt]** キーを押しながら **[半角/全角]** キーを押して入力モードの切り替えを行います。

## ログインできない

ログインセッションがすでに開かれていませんか。

本製品のログインセッション数はローカル(コンソール)、リモート(Telnet)合わせて1つです。2つ以上のセッションを同時に開くことはできません。設定が終了したら必ずQUIT コマンドでログアウトするようにしてください。

以上の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

 92 ページ「サポート連絡先」

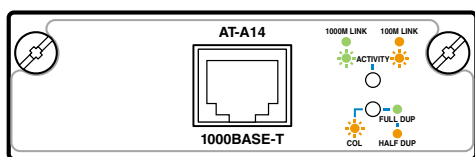
## 4.2 拡張モジュール

本製品には、オプション(別売)で、拡張モジュールが用意されています。

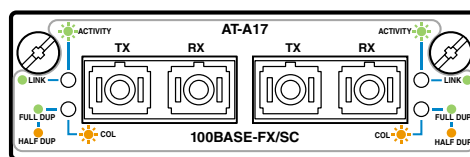
前面にある2つの拡張スロットにどのような組み合わせでも装着が可能のため、様々なメディアと速度に対応し、ネットワークを柔軟に構成・拡張することができます。

LEDの表示内容や製品仕様については、各モジュールのインストレーションガイドをご覧ください。

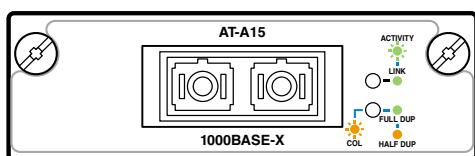
### 拡張モジュールの種類



**AT-A14**  
100BASE-TX/1000BASE-Tポート×1

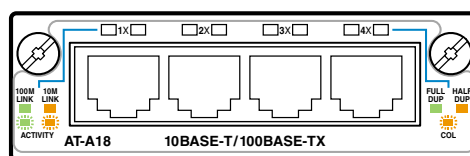


**AT-A17**  
100BASE-FXポート×2



**AT-A15/SX**  
1000BASE-SXポート×1

**AT-A15/LX**  
1000BASE-LXポート×1



**AT-A18**  
10BASE-T/100BASE-TXポート×4

### ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

モジュール名	使用ケーブル	最大伝送距離
AT-A14	100BASE-TX : UTPカテゴリ-5*1以上 1000BASE-T : UTPエンハンスド・カテゴリ-5	100m
AT-A15/SX	50/125 $\mu$ m マルチモードファイバー	550m (伝送帯域500MHz・km時)
	62.5/125 $\mu$ m マルチモードファイバー	275m (伝送帯域200MHz・km時)
AT-A15/LX	9.5 (10) /125 $\mu$ m シングルモードファイバー	5000m
	50/125 $\mu$ m マルチモードファイバー 62.5/125 $\mu$ m マルチモードファイバー*2	550m (伝送帯域500MHz・km時)
AT-A17	50/125 $\mu$ m マルチモードファイバー 62.5/125 $\mu$ m マルチモードファイバー	412m (Half Duplex接続時) 2000m (Full Duplex接続時)
AT-A18	10BASE-T : UTPカテゴリ-3*1以上 100BASE-TX : UTPカテゴリ-5*1以上	100m

\*1 弊社シールド付カテゴリ-5(ストレート)ケーブルにも対応しています。


\*2 コネクターと光ファイバーケーブルの間にモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。

## 拡張モジュールのポート番号

拡張モジュールのポート番号は、装着する拡張モジュールの種類と組み合わせによって異なります。スロット A の一番左側のポートが最初のポート番号 (=ポート 25) になり、右側に行くにしたがって 1 つずつ増加します。

また、拡張モジュールにはデフォルトでポート名が設定されています。Uplink Port x の「x」は、拡張モジュールだけで独立したポート番号で、スロット A の一番左側のポートは「Uplink Port 1」となります。

ポート番号	ポートタイプ	ポート名 (デフォルト)
25~32 (最大)	AT-A14 (100BASE-TX/1000BASE-T×1)	Uplink Port x (G/T)
	AT-A15 (1000BASE-SX/LX×1)	Uplink Port x (G/X)
	AT-A17 (100BASE-FX×2)	Uplink Port x (FX)
	AT-A18 (10BASE-T/100BASE-TX×4)	Uplink Port x (TX)

 オペレーションマニュアル「ポートの設定」

## 4.2 拡張モジュール

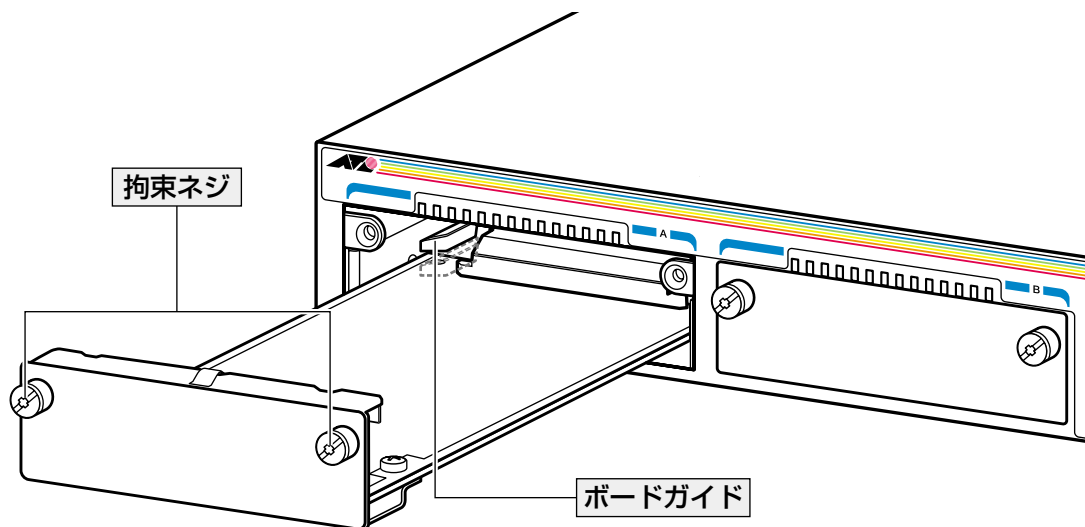
### 拡張モジュールの取り付けかた


**1** 拡張モジュールの取り付け / 取りはずし作業は、必ず、本体の電源ケーブルを抜いて、電源を切ってから行ってください。感電の恐れがあります。

**!** 拡張モジュールは、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷する恐れがありますので、取り扱いの際は、アースストラップを使用するなどの静電防止対策をして、ボード部分にはできるだけ手を触れないようにしてください。




また、保管するときは、拡張モジュールが梱包されていた静電防止袋に入れて、静電気のある場所を避けてください。

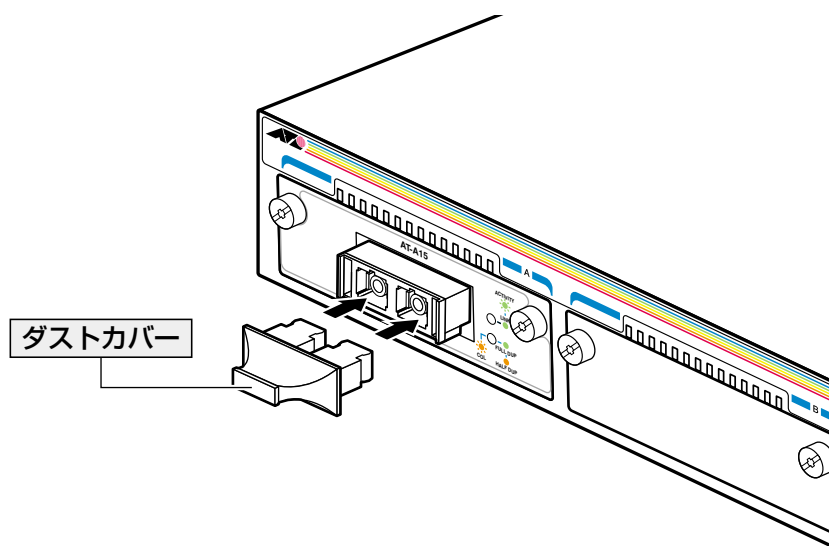
- 1 本体の電源ケーブルを抜きます。
- 2 本体前面拡張モジュール用スロットのカバーパネルのネジをドライバーでゆるめて、カバーパネルをはずします。
- 3 拡張モジュールのボード部分を、スロットのボードガイドにそって差し込みます。このとき、ボード部分には手を触れず、前面パネルを持って取り付けてください。



- 4 拡張モジュールの前面パネルが本体の前面パネルとそろり位置まで、拡張モジュールを押し込みます。
- 5 拡張モジュールの拘束ネジをドライバーでしめます。
- 6 電源ケーブルを接続します。  
 28 ページ「電源ケーブルを接続する」
- 7 以上で、拡張モジュールの装着が完了しました。

拡張モジュールを取りはずす場合は、拘束ネジをドライバーでゆるめ、前面パネルを持ってゆっくりと引き抜きます。

-  拡張モジュールを装着していないときは、拡張モジュール用スロットにカバーパネルを付けておいてください。
-  拡張モジュールを 1 枚だけ使用する場合は、スロット A に装着してください。
-  光ポートには、ほこりなどからコネクタを保護するダストカバーが付いています。光ファイバーケーブルを接続していないときは、コネクタにダストカバーを付けておいてください。



## 4.3 リダンダント電源装置

本製品には、オプション(別売)で、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8100以下、RPS8100と略します)」が用意されています。

RPS8100の使用により、停電や電源ケーブルの断線・接続不良、本体の電源ユニットの故障といった電源障害による本体の機能停止を防ぎます。

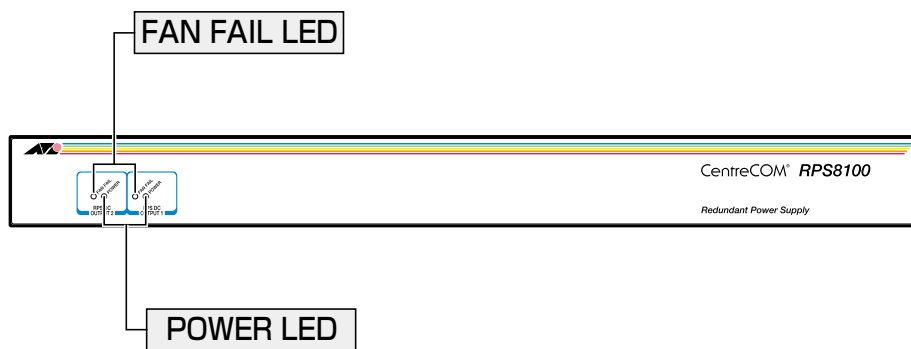
製品仕様などについては、RPS8100のインストレーションガイドをご覧ください。

### RPS8100 について

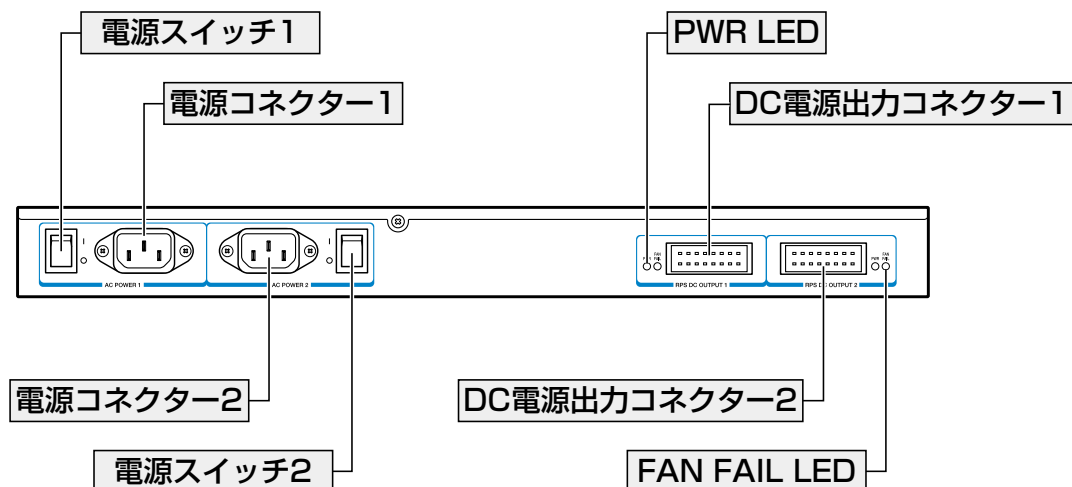
RPS8100は独立した2つの電源ユニットを内蔵しているため、2台の8224SLに直流電流を供給できます。また、LEDとコマンドライン(メニュー)インターフェースから、電源とファンの状態の監視が可能です。

筐体は8224SLと同じ1U(約45mm)サイズで、付属のブラケットにより19インチラックへの取り付けができます。

#### 前面



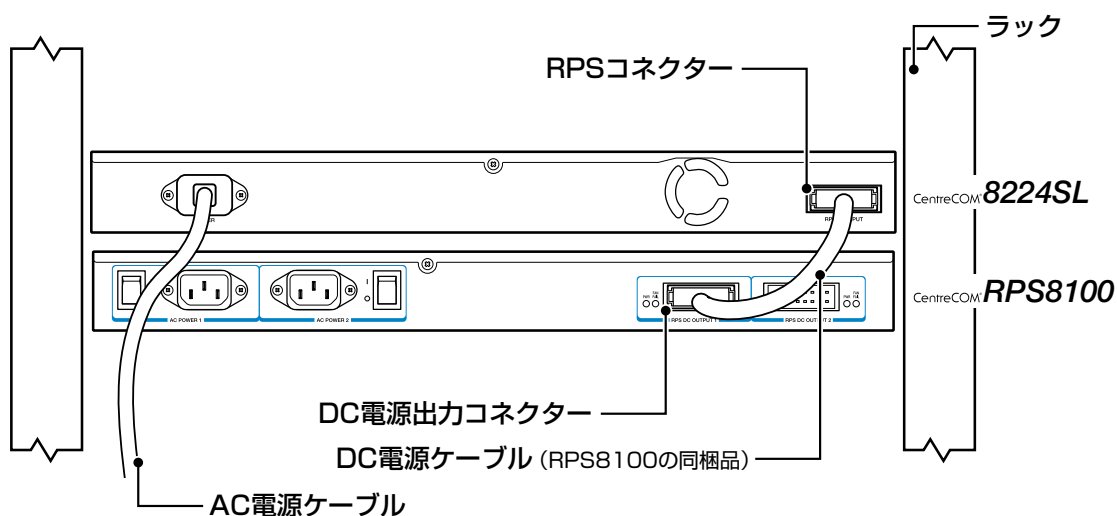
#### 背面



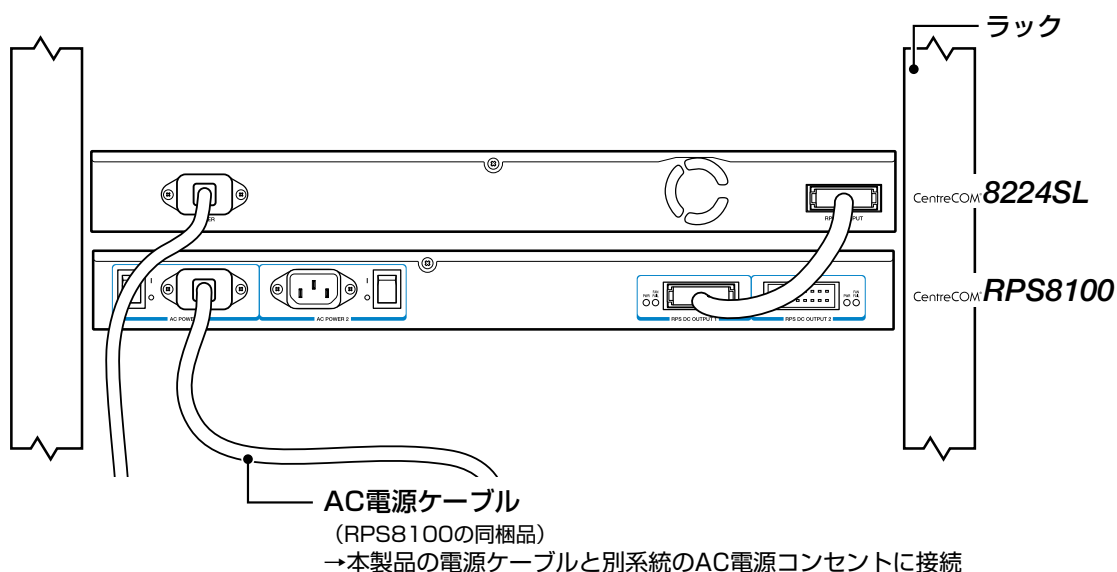
## RPS8100の接続のしかた

ここでは系統「1」の接続手順を示します。それぞれの系統は、独立して接続操作を行うことができます。

- 1 DC電源ケーブル(RPS8100の同梱品)を使用して、本体背面のRPSコネクターと、RPS8100のDC電源出力コネクター(RPS DC OUTPUT 1)を接続します。  
このとき、本体の電源を切る必要はありません。



- 2 AC電源ケーブル(RPS8100の同梱品)のソケット側をRPS8100のAC電源コネクター(AC POWER 1)に接続します。  
次に、AC電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントに接続します。



- ! サーキットブレーカーの遮断などによる商用電源の供給停止に対応するには、RPS8100の電源ケーブルは本製品の電源ケーブルと別系統の電源コンセントに接続してください。


## 4.3 リダンダント電源装置

- 3 RPS8100の電源スイッチをオンにします。  
正しく電源が供給されると、RPS8100のPOWER (PWR) LED(緑)が点灯します。


---

### RPS8100のモニター

RPS8100の状態表示には、LEDとコマンドライン(メニュー)インターフェースの2種類があります。コマンドラインインターフェースの場合、SHOW DIAGコマンドを実行すると、8224SL本体とRPS8100の電源状態やRPS8100のファンの状態が確認できます。

 70 ページ「セルフテストの結果を確認する」

また、8224SL本体とRPS8100の電源切り替わり時、およびRPS8100のファン異常検出時に、8224SLからSNMPトラップを発行することができます。

 60 ページ「SNMPトラップごとに送信先ホストを設定する」



## 4.4 ハイパーターミナルの設定

コンソールターミナルとして、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NTに標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続すると仮定します。)

### Windows Me をご使用の場合

「ハイパーターミナル」をあらかじめインストールしておく必要があります。

[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

[Windows ファイル] タブをクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [通信] をクリックします。次に [詳細] をクリックし、[ファイルの種類] ボックスで [ハイパーターミナル] のチェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。

以上で「ハイパーターミナル」がインストールされます。

### 1 ハイパーターミナルを起動します。

**Windows 95の場合** - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。次に Hypertrm.exe をダブルクリックします。

**Windows 98の場合** - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックし、Hypertrm.exe をダブルクリックします。

**Windows Me/2000/XPの場合** - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。

**Windows NTの場合** - [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[ハイパーターミナル] をクリックします。

- 2** [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。

## 4.4 ハイパーターミナルの設定

### 3 接続方法を設定します。

Windows 95の場合- [電話番号] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows 98/Me/2000の場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows XPの場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

Windows NTの場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。

[ポートの設定] タブの [接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。

### 4 「COM1のプロパティ」 ダイアログボックスが表示されます。

各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。

(下の画面は Windows 98の場合)



**i** ▶ 本製品ターミナルポートの通信速度はデフォルトで9600bpsに設定されていますが、コマンド(メニュー)で2400bps/4800bps/19200bpsのいずれかに変更することができます。

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル(HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。
- [ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。次に[設定]タブをクリックし、各項目を下図のように設定して、[OK]をクリックします。
- (下の画面は Windows 98の場合)




- 6 以上で、設定が終わりました。
- [Enter]キーを押すと、ソフトウェアのセッションが開始され、「Login:」プロンプトが表示されます。

- ! ログインセッションを終了させる場合は、QUITコマンドを実行(メニューの場合は [Quit] を選択)してください。
- 2つ以上のセッションを同時に開くことはできません。QUIT コマンドを実行(メニューの場合は [Quit] を選択)してセッションを終了させないと、リモートからの接続ができなくなります。

## 4.5 Telnet クライアントの設定

本製品は Telnet サーバーを内蔵しているため、他の Telnet クライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 95/98/Me/2000/XP、Windows NT の Telnet クライアントの設定方法を説明します。

 Telnet を使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品に IP アドレスを割り当てておく必要があります。

 47 ページ 「IP アドレスを設定する」

**7** ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

**Windows 95 の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。  
[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワーク構成] ボックスで [TCP/IP] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

**Windows 98/Me の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。  
[ネットワークの設定] タブをクリックし、[現在のネットワークコンポーネント] ボックスで、[TCP/IP -> (ご使用のアダプター)] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

**Windows 2000 の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。  
[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

**Windows XP の場合**- [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に [ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。  
[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows NTの場合- [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。[プロトコル] タブをクリックし、[ネットワークプロトコル] ボックスで [TCP/IPプロトコル] をクリックします。次に [プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧になり、IPアドレスなどを正しく設定してください。

## 2 Telnetクライアントを起動します。

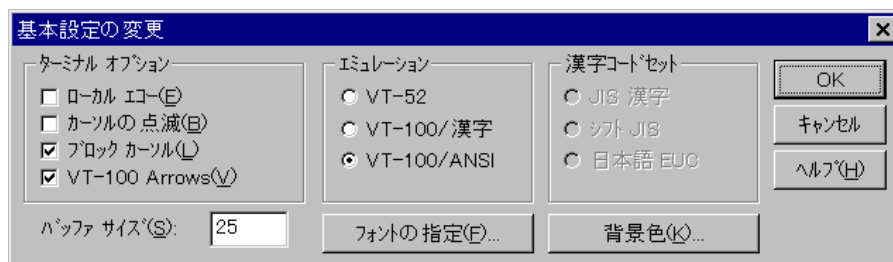
Telnetクライアントは、Windows 95/98/Me/Windows NTの場合 Windowsアプリケーション、Windows 2000/XPの場合コマンドラインアプリケーションになります。

Windows 95/98/Me/NTの場合- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。

Windows 2000/XPの場合- [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNETに続けて本製品のIPアドレスを指定することもできます。

## 3 ターミナルの設定を行います。

Windows 95/98/Me・Windows NTの場合- [ターミナル] メニューの [基本設定(設定)] をクリックします。次に [エミュレーション] で [VT-100/ANSI] をクリックし、[OK] をクリックします。



Windows 2000/XPの場合- 次のコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。xにはANSIまたはVT100を指定します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM x
```

## 4.5 Telnet でログインする

- 4 本製品の Telnet サーバーに接続します。

Windows 95/98/Me・Windows NT の場合 - [接続] メニューの [リモートシステム] をクリックします。次に [ホスト名] ボックスで、本製品の IP アドレスを入力し、[接続] をクリックします。



Windows 2000/XP の場合 - 次のコマンドを入力して、**[Enter]** キーを押します。OPEN に続けて本製品の IP アドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1
```

- 5 以上で、設定が終わりました。

**[Enter]** キーを押すと、ソフトウェアのセッションが開始され、「Login:」プロンプトが表示されます。

# 4.6 仕 様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクタのピンアサインなどを説明します。

## コネクタ・ケーブル仕様

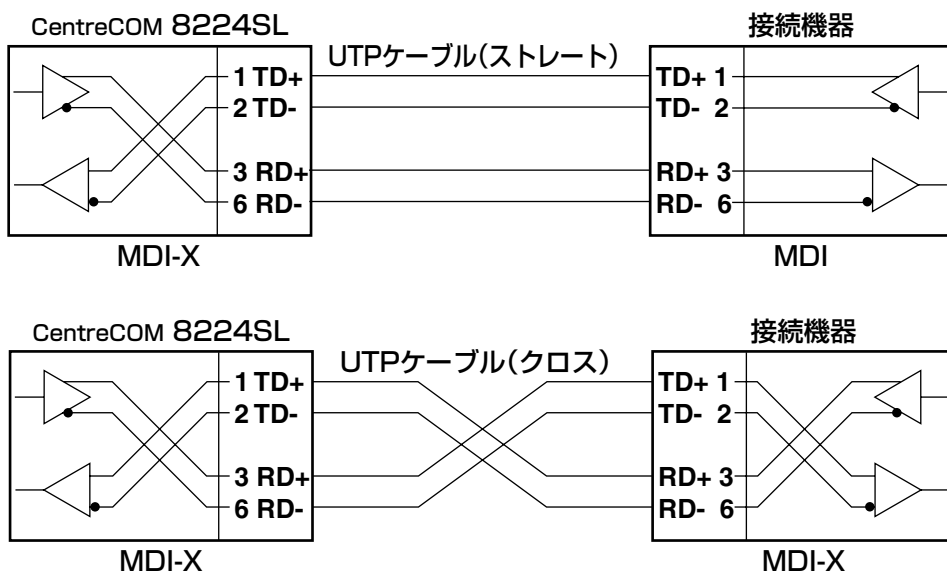
### 10BASE-T/100BASE-TX インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。

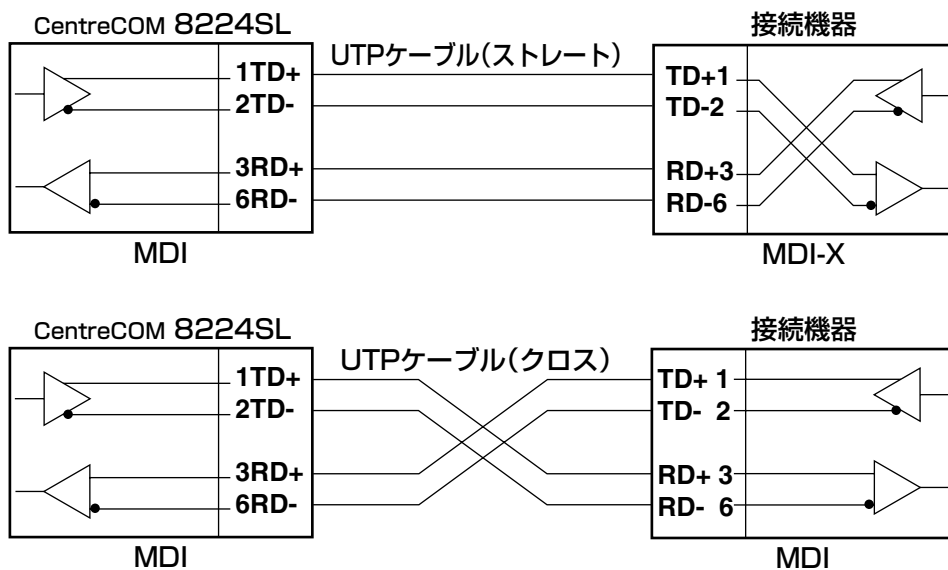


コンタクト	MDI信号
1	TD+ (送信)
2	TD- (送信)
3	RD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	RD- (受信)
7	未使用
8	未使用

ケーブルの結線は下図のとおりです。

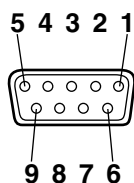


## 4.6 仕様



### RS-232 インターフェース

D-Sub 9ピン(メス)タイプのコネクタを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TD)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	DSR (DR)	データセットレディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DTR (ER)	データ端末レディ
7	CTS (CS)	送信可
8	RTS (RS)	送信要求
9	NOT USED	未使用



## 本製品の仕様

<b>サポート規格</b>	
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.1D Spanning Tree IEEE 802.1Q VLAN tagging IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol
<b>転送モード</b>	
	ストア&フォワード
<b>電源部</b>	
定格入力電圧	電源コネクタ：AC100-240V RPSコネクタ：DC3.3V
入力電圧範囲	AC90-255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	電源コネクタ：2A RPSコネクタ：30A
平均消費電力 ※ 拡張モジュール未装着時	38W (最大44W)
平均発熱量 ※ 拡張モジュール未装着時	33kcal/h (最大37kcal/h)
<b>環境条件</b>	
動作時温度	0~40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
保管時温度	-20~60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
<b>外形寸法 (突起部含まず)</b>	
	440 (W) × 357 (D) × 44 (H) mm
<b>重量</b>	
	4.4kg
<b>MACアドレス登録数</b>	
	8K (最大)
<b>メモリー容量</b>	
パケットバッファ容量 ※ 拡張モジュール未装着時	12MByte (4MByte×3Chip)
<b>適合規格</b>	
安全規格	UL60950, CSA-C 22.2 No.60950
EMI規格	VCCIクラスA
<b>サポートするMIB</b>	
	MIB II (RFC1213)
	イーサネットMIB (RFC1643)
	ブリッジMIB (RFC1493)
	RMON MIB (RFC1757 [1,2,3,9グループ])
	インターフェース拡張グループMIB (RFC1573)
	プライベートMIB



# 5

## 保証とユーザーサポート

---

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

# 5.1 保証とユーザーサポート

## 保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

## 保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

## ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、次ページ「調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

## サポート連絡先

### アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

祝・祭日を除く月～金曜日 9:00～12:00  
13:00～18:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

## 5.2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

---

### 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。  
シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体背面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



- ソフトウェアバージョンを記入してください。  
ソフトウェアバージョンは、ログイン後またはSHOW DIAG コマンドで表示されるシステム情報の「Version」の項で確認できます。
- オプション(別売)の拡張モジュールやリダンダント電源装置を使用している場合は、項目にチェックをしてください。

---

### お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

---

### ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。



アライドテレシス株式会社

PN J613-M2840-00 Rev.A 020628